



Maglev ウィザードを使用したアプライアンスの設定

- [アプライアンスの設定の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Maglev ウィザードのインターフェイスの設定順序 \(2 ページ\)](#)
- [Maglev ウィザードを使用したプライマリノードの設定 \(2 ページ\)](#)
- [Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定 \(25 ページ\)](#)
- [最新の Cisco DNA Center リリースへのアップグレード \(48 ページ\)](#)

アプライアンスの設定の概要

次の2つのモードのいずれかを使用すると、アプライアンスをネットワークに展開できます。

- **スタンドアロン**：すべての機能を提供する単一のノードとして。このオプションは通常、初期展開、テスト展開、小規模なネットワーク環境での使用に適しています。初期展開でスタンドアロンモードを選択した場合は、後でクラスタを形成するためにアプライアンスを追加できます。スタンドアロンホストの設定時には、クラスタ内の最初のノード、つまりプライマリノードとして設定されていることを確認してください。
- **クラスタ**：3 ノードクラスタに属するノードとして。このモードでは、すべてのサービスとデータがホスト間で共有されます。これは、大規模な展開で推奨されるオプションです。初期展開でクラスタモードを選択した場合は、セカンダリノードの設定に進む前に、プライマリノードの設定を完了してください。

続行するには、次のタスクを実行します。

1. クラスタのプライマリノードを設定します。[Maglev ウィザードを使用したプライマリノードの設定 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
2. 3つのアプライアンスを設置し、クラスタに2番目と3番目のノードを追加する場合、「[Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定 \(25 ページ\)](#)」を参照してください。

Maglev ウィザードのインターフェイスの設定順序

Cisco DNA Center アプライアンスのインターフェイスを Maglev 構成ウィザードで設定する順序は、次の表に示すように、アプライアンスの第1世代と第2世代とで異なります。お使いのアプライアンスが第1世代と第2世代のどちらかを判断するには、次のとおりシスコ製品番号を参照してください。

- 第1世代 44 コアアプライアンス : DN1-HW-APL
- 第2世代
 - 44 コアアプライアンス : DN2-HW-APL
 - 44 コア プロモーション アプライアンス : DN2-HW-APL-U
 - 56 コアアプライアンス : DN2-HW-APL-L
 - 56 コア プロモーション アプライアンス : DN2-HW-APL-L-U
 - 112 コアアプライアンス : DN2-HW-APL-XL
 - 112 コア プロモーション アプライアンス : DN2-HW-APL-XL-U

Cisco DNA Center アプライアンスのインターフェイスと機能	アプライアンスのタイプ	Maglev ウィザードでの設定順序
エンタープライズ (Enterprise) : アプライアンスをエンタープライズネットワークにリンクします。	第1世代	ネットワークアダプタ #4
	第2世代	ネットワークアダプタ #1
クラスタ内 : アプライアンスをクラスタノードにリンクします。	第1世代	ネットワークアダプタ #1
	第2世代	ネットワークアダプタ #2
管理 (Management) : 管理ネットワークから Cisco DNA Center GUI にアクセスできます。	第1世代	ネットワークアダプタ #2
	第2世代	ネットワークアダプタ #3
インターネット : この目的で別のインターフェイスを使用できない場合にインターネットアクセスを提供します。	第1世代	ネットワークアダプタ #3
	第2世代	ネットワークアダプタ #4

Maglev ウィザードを使用したプライマリノードの設定

最初にインストールされたアプライアンスをプライマリノードとして設定するには、次の手順を実行します。最初のアプライアンスは、スタンドアロンとして運用するか、またはクラスタ

の一部として運用するかにかかわらず、常にプライマリノードとして設定する必要があります。

すでにプライマリノードがある既存のクラスタのセカンダリノードとしてインストールされたアプライアンスを設定する場合には、代わりに[Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定 \(25 ページ\)](#)に記載されている手順を実行します。



- (注) この手順の実行中に入力するすべての IP アドレスが有効な IPv4 ネットマスクを持つ有効な IPv4 アドレスであることを確認してください。また、アドレスと対応するサブネットが重複していないことを確認してください。重複している場合、サービスの通信の問題が発生する可能性があります。



- 重要** 3 ノードクラスタでアプライアンスを設定する前に、それらのアプライアンスからログアウトしていることを確認します。ログアウトしていない場合、クラスタのアプライアンスを設定し、Cisco DNA Center に初めてログインした後に、(ネットワークのデバイスを検出してテレメトリを有効にするために完了する) クイック スタート ワークフローが開始されません。

始める前に

次のことを確認します。

- 「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」で指定されているすべての情報を収集したこと。
- 「[アプライアンスのインストールワークフロー](#)」の説明に従って、最初のアプライアンスがインストールされたこと。
- 「[Cisco Integrated Management Controller に対するブラウザアクセスの有効化](#)」の説明に従って、プライマリノードで Cisco IMC に対するブラウザのアクセス権が設定されたこと。
- 「[事前設定チェックの実行](#)」の説明に従って、プライマリ ノードアプライアンスのポートとそれらのポートによって使用されるスイッチが適切に設定されていること。
- 互換性のあるブラウザを使用していることを確認済みであること。互換性のあるブラウザの一覧については、インストールしている Cisco DNA Center のバージョンに対応する [リリースノートドキュメント](#)を参照してください。
- 次の手順で指定するデフォルトゲートウェイおよび DNS サーバと Cisco DNA Center の間のファイアウォールで ICMP が許容されること。Maglev 設定ウィザードでは ping を使用して、ユーザが指定したゲートウェイおよび DNS サーバを確認します。ファイアウォールが配置されており、そのファイアウォールで ICMP が許容されていない場合、この ping がブロックされる可能性があります。ブロックされた場合、ウィザードを完了できません。

ステップ 1 お使いのブラウザで、実行した cisco imc GUI 設定で設定した Cisco IMC の IP アドレスをポイントし、cisco imc ユーザとして Cisco IMC GUI にログインします（「[Cisco Integrated Management Controller に対するブラウザアクセスの有効化](#)」を参照）。

ログインが成功すると、次に示すように、アプライアンスに **[Cisco Integrated Management Controller Chassis Summary]** ウィンドウが、ウィンドウ上部のハイパーリンクメニューとともに表示されます。



ステップ 2 ハイパーリンクメニューで **[Launch KVM]** を選択してから **[Java based KVM]** と **[HTML based KVM]** のいずれかを選択します。**[Java-based KVM]** を選択した場合、KVM コンソールを独自のウィンドウで表示するために、ブラウザまたはファイルマネージャから Java スタートアップファイルを起動する必要があります。**[HTML-based KVM]** を選択すると、KVM コンソールが別個のブラウザウィンドウまたはタブで自動的に起動します。

選択した KVM のタイプに関係なく、KVM コンソールを使用して、設定の進行状況をモニタし、Maglev 構成ウィザードのプロンプトに応答します。

ステップ 3 KVM が表示されたら、次のいずれかを選択してアプライアンスをリブートします。

- メインの Cisco IMC GUI ブラウザウィンドウで、**[Host Power]** > **[Power Cycle]** を選択し、KVM コンソールに切り替えて続行します。
- KVM コンソールで、**[Power]** > **[Power Cycle System (cold boot)]** を選択します。

アプライアンスをリブートするかどうかの確認を求められたら、**[OK]** をクリックします。

リブートメッセージが表示された後、KVM コンソールに Maglev 構成ウィザードのウェルカム画面が表示されます。

```
Welcome to the Maglev Configuration Wizard!

The wizard will walk you through the steps to configure this host. Select one of the options below to specify how you
would like to configure this host:

Start a Cisco DNA Center Cluster
Join a Cisco DNA Center Cluster

< exit >

Web installation: https://172.29.131.224:9004/
```

ステップ 4 プライマリノードの設定を開始するには、[Start a Cisco DNA Center Cluster] を選択します。画面が更新されます。

```
Welcome to Maglev Configuration Wizard!

This wizard will walk you through the steps to configure this host. Select one of the options below to specify how would
you like to configure this host:

Start using DNAC pre manufactured cluster
Start configuration of DNAC in advanced mode

< back > < exit >

This mode will enable you to stand up the DNAC Node in it's default manufactured state. This mode supports bringing up
DNAC only in IPv4 mode. Use Advanced mode for deploying DNAC in IPv6 mode.
```

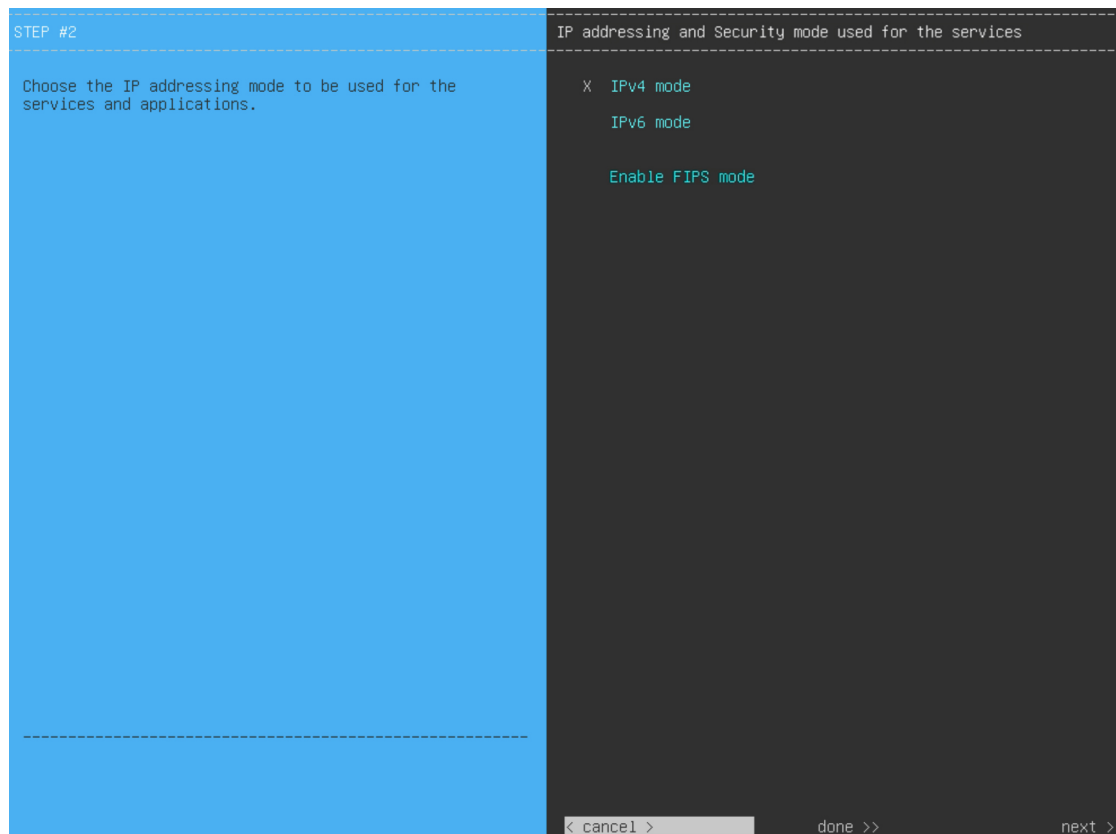
ステップ 5 次のいずれかのオプションを選択します。

- [Start using DNAC pre manufactured cluster] : デフォルトの設定でアプライアンスを設定するには、このオプションを選択します。
 - クラスタ内インターフェイスの IP アドレス : 169.254.6.66
 - クラスタ内インターフェイスのサブネットマスク : 255.255.255.128
 - コンテナサブネット : 169.254.32.0/20
 - クラスタサブネット : 169.254.48.0/20
 - IPv4 アドレス指定
 - 管理スーパーユーザーのパスワード : maglev1@3

これらの設定はいずれも変更できないため、使用する場合にのみこのオプションを選択します。

- [Start configuration of DNAC in advanced mode] : 前述の箇条書きにリストされている1つ以上のデフォルト設定を使用しないアプライアンスを設定するには、このオプションを選択します。アプライアンスで IPv6 アドレッシングを使用する場合も、このオプションを選択します。

画面が更新されます。



ステップ 6 次の手順を実行し、[next>>] をクリックして続行します。

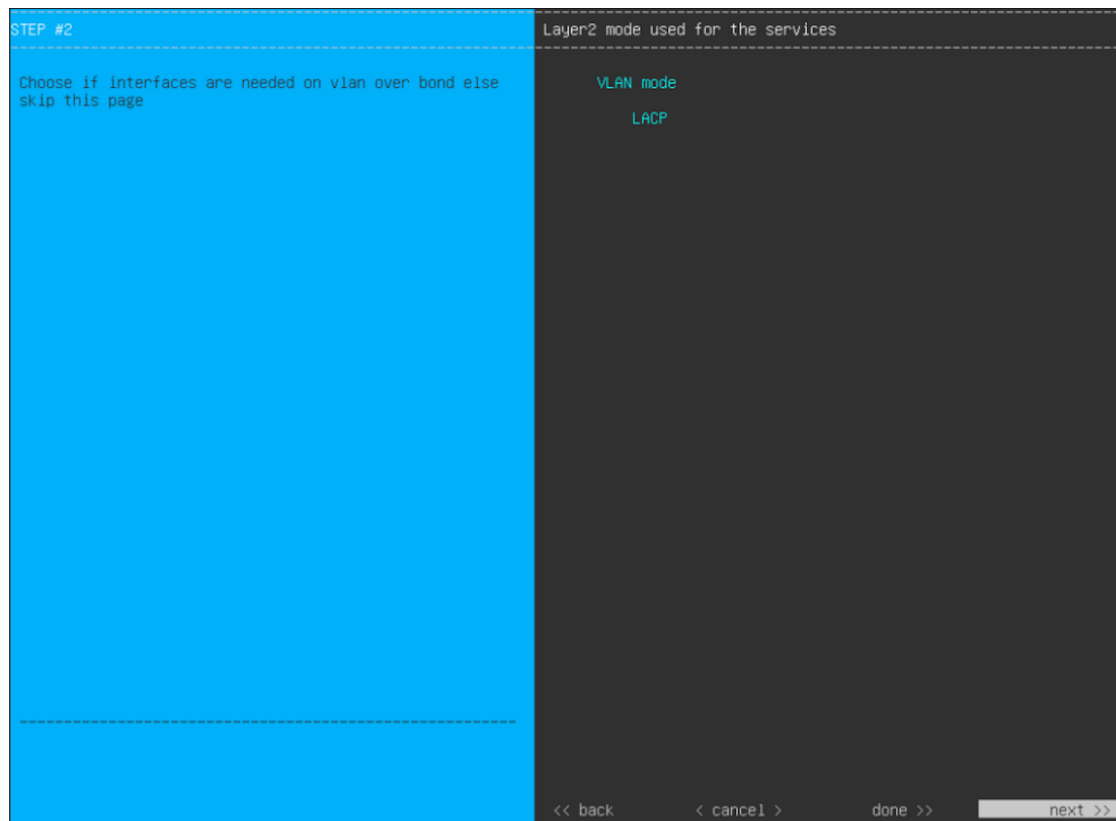
- a) Cisco DNA Center アプライアンスで実行されているアプリケーションとサービスが IPv4 または IPv6 アドレッシングを使用するかどうかを指定します。
- b) (任意) Cisco DNA Center アプライアンスで FIPS モードを有効にするには、[Enable FIPS Mode] チェックボックスをオンにします。

次の点に注意してください。

- リリース 2.3.3 以降、Cisco DNA Center は連邦情報処理標準 (FIPS) をサポートしています。これは、暗号化アルゴリズムの実装、キー情報とデータバッファの処理、およびオペレーティングシステムの操作に関するベストプラクティスを指定する政府認証標準です。FIPS モードが有効になっている場合、URL からイメージをインポートすることはできません。コンピュータまたは cisco.com からのみイメージをインポートできます。また、[USER ACCOUNT SETTINGS] 画面で、デフォルトの管理スーパーユーザー用に 8 文字以上のパスワードを入力する必要があります。
- この Maglev 構成ウィザード画面は、FIPS モードを有効にできる唯一の場所です。
- 前の手順で [Start using DNAC pre manufactured cluster] オプションを選択した場合、このウィザード画面は表示されません。その結果、FIPS モードを有効化できません。
- Cisco DNA Center は、FIPS モードが有効になっている場合、SNMPv2c デバイスクレデンシャルをサポートしません。代わりに、SNMPv3 クレデンシャルを指定する必要があります。
- 以前の Cisco DNA Center バージョンからアップグレードされたアプライアンスでは FIPS モードを有効化できません。バージョン 2.3.3 がすでにインストールされているアプライアンスでのみ有効化できます。
- アプライアンスで FIPS モードを有効化した後で、無効化できる唯一の方法は、アプライアンスのイメージを再作成することです (既存のデータをすべて消去するため)。その後、FIPS モードを無効化してアプライアンスを再構成できます。詳細については、「[アプライアンスのイメージの再作成](#)」を参照してください。
- FIPS モードが有効になっている場合、KeyWrap を有効化できるのは、Cisco DNA Center と Cisco ISE がまだ統合されていない場合のみです。詳細については、「[認証サーバとポリシーサーバの設定](#)」を参照してください。
- アプライアンスを構成した後、次の操作を実行して、FIPS モードが有効になっているかどうかを確認できます。
 1. アプライアンスの SSH コンソールを開き、`ssh -p 2222 maglev@appliance's-IP-address` コマンドを実行します。
 2. デフォルトの管理スーパーユーザーのパスワードを入力して、アプライアンスにログインします。
 3. `magctl fips status` コマンドを実行します。

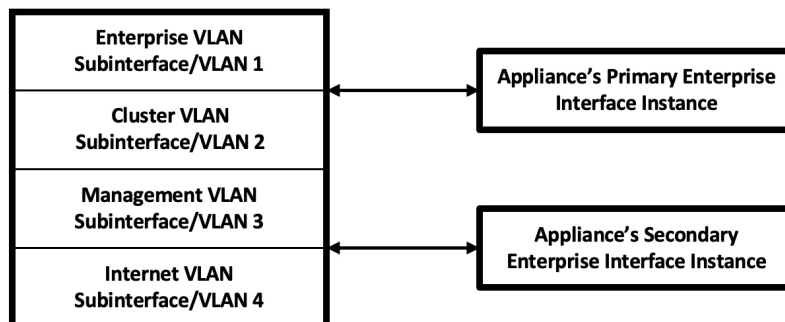
ステップ 7 (オプション) 次の手順を実行して、アプライアンスのレイヤ 2 ポートチャネルモード (VLAN タグ付き) を有効にします。これにより、アプライアンスのエンタープライズ (インターフェイス? ポート?)

のプライマリインスタンスとセカンダリインスタンスの両方を使用してネットワークに接続する単一の結合インターフェイスが作成されます。選択したら、[next>>] をクリックして続行します。



- a) [VLAN mode] オプションを選択して dot1q/VLAN トランッキングを有効にし、アプライアンスのエンタープライズ、クラスタ、管理、およびインターネットインターフェイスを、結合されたインターフェイス上にある VLAN サブインターフェイスに変換します（次の図を参照）。デフォルトでは、このインターフェイスはアクティブ バックアップ モード（HA を有効にする）で動作します。

Bonded Interface



- b) 代わりにこのインターフェイスを LACP モード（ロードバランシングとより高い帯域幅を有効にする）で動作させる場合は、[LACP] オプションも選択する必要があります。
- c) アプライアンスのエンタープライズインターフェイスの設定を入力するときは、[VLANIDofInterface] フィールドに結合インターフェイスの一意の VLAN ID を入力してください。

重要

- 結合インターフェイス機能は、一般的には使用されません。Cisco DNA Center 展開が必要な場合にのみ有効にしてください。NIC ボンディングを有効にするだけの場合は、次の2つのウィザード画面で有効化できます。
- この機能は、次の展開タイプのいずれかが使用されていることを前提としています。
 - アプライアンスのエンタープライズ インターフェイスとクラスタインターフェイスが構成されている展開。
 - アプライアンスのエンタープライズ、クラスタ、および管理インターフェイスが構成されている展開。

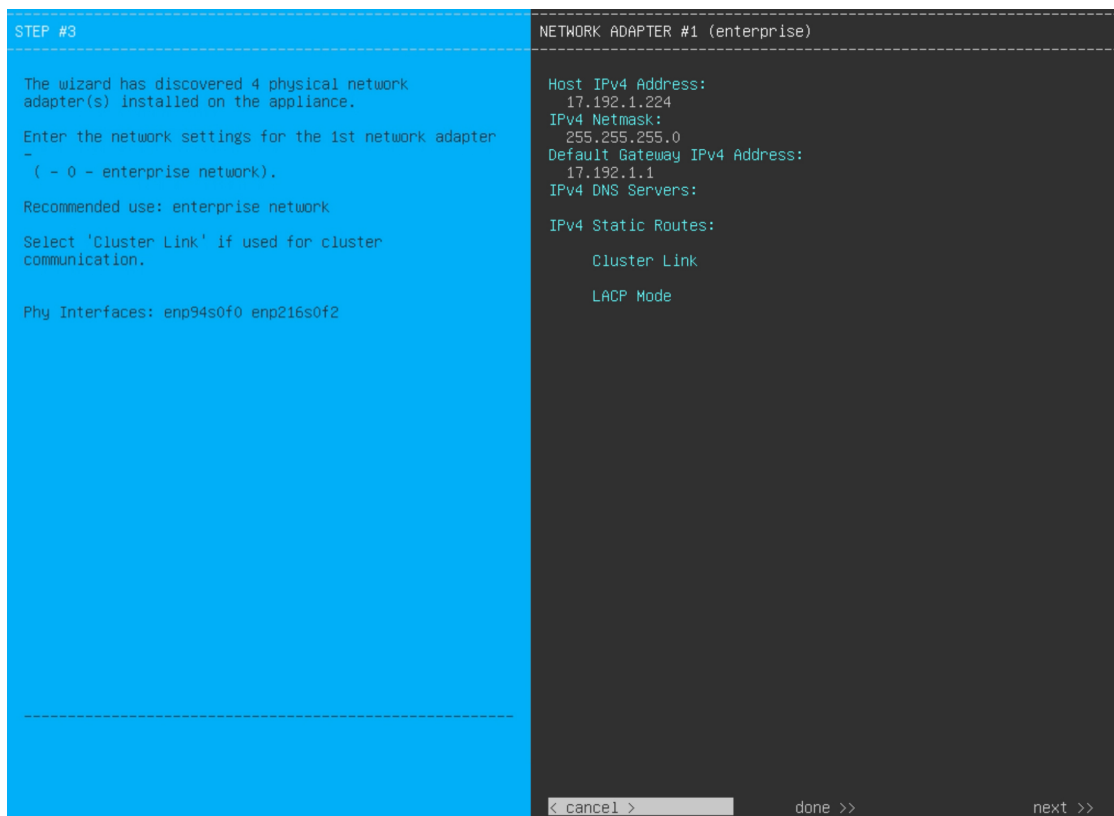
ウィザードでは、アプライアンス上のすべてのポートが検出され、次の順序で1つずつ別の画面に表示されます。

1. (必須) 10 Gbps エンタープライズポート：ネットワークアダプタ #1
2. (必須) 10 Gbps クラスタポート：ネットワークアダプタ #2
3. (任意) 1 Gbps/10 Gbps 管理ポート：ネットワークアダプタ #3
4. (任意) 1 Gbps/10 Gbps インターネットポート：ネットワークアダプタ #4

設定の過程でウィザードがエンタープライズポートとクラスタポートのいずれかまたは両方を表示できない場合は、これらのポートが機能していないか、または無効になっている可能性があります。Cisco DNA Center 機能にはこの2つのポートが必要です。機能していないことが判明した場合には、**[Cancel]**を選択し、すぐに設定を終了します。設定を再開したり、Cisco Technical Assistance Center に連絡したりする前に「[事前設定チェックの実行](#)」に記載されているすべての手順が完了していることを確認してください（詳細については『[リリースノート](#)』の「[Get Assistance from the Cisco TAC](#)」を参照してください）。

ステップ 8

ウィザードにより、最初に 10 Gbps エンタープライズポートが NETWORK ADAPTER #1 として表示されます。「[インターフェイスクーブル接続](#)」で説明したように、このポートは、アプライアンスをエンタープライズ ネットワークにリンクするために必要なポートです。この目的に適したホスト IP アドレス、ネットマスク、およびその他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。



次の表のとおり [ネットワークアダプタ #1 (NETWORK ADAPTER #1)] の設定値を入力します。

表 1: ネットワークアダプタ #1 のプライマリノードエントリ : 10 Gbps エンタープライズポート

[Host IPv4/IPv6 Address] フィールド	エンタープライズポートの IP アドレスを入力します。これは必須です。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。
[Default Gateway IPv4/IPv6 Address] フィールド	ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。 <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>

[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要 クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。</p>
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートをスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ>の形式で入力します。これは通常、Cisco DNA Center 管理ポートでのみ必要です。</p>
[Vlan Id of Interface] フィールド	<p>前の手順で有効にした結合インターフェイスの VLANID を入力します。有効にしていない場合、このフィールドは表示されません。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このフィールドは空欄のままにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>
[LACP Mode] フィールド	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドを空白のままにすると、ポートはアクティブ/バックアップモードで動作します。このモードでは、2 つのイーサネットインターフェイスを 1 つの論理チャネルに集約することで、耐障害性が提供されます。現在アクティブなインターフェイスがダウンすると、他のインターフェイスが代わりにアクティブになります。 このポートの [LACP] モードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このモードでは、同じ速度とデュプレックス設定を共有する 2 つのイーサネットインターフェイスが 1 つの論理チャネルに集約されます。これにより、ロードバランシングとより高い帯域幅が提供されます。 <p>Cisco DNA Center の NIC ボンディングの実装に関する詳細については、NIC ボンディングの概要を参照してください。</p> <p>(注) このフィールドは、前の手順でオプションを選択しなかった場合に表示されます。</p>

設定値の入力が完了したら、[next >>] をクリックして続行します。入力した値がウィザードによって検証され、正しくない値が含まれていた場合にはエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合には、入力した値が正しいことを確認してから、再入力します。必要に応じて [<< back] をクリックして再入力します。

ステップ 9 入力したエンタープライズポート値の検証が成功すると、ウィザードに 10 Gbps クラスタポートが [NETWORK ADAPTER #2] として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明したように、このポートはアプライアンスをクラスタにリンクするために使用されるため、ホスト IP アドレス、ネットマスク、およびこの目的に適した他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。

STEP #3	OPTIONAL - NETWORK ADAPTER #2 (cluster)
(Optional) Enter the network settings for the 2nd network adapter - (- 0 - Intra-cluster link). Recommended use: Intra-cluster link Select 'Cluster Link' if used for cluster communication. Phy Interfaces: enp94s0f1 enp216s0f3	Host IPv4 Address: 169.254.6.66 IPv4 Netmask: 255.255.255.128 Default Gateway IPv4 Address: IPv4 DNS Servers: IPv4 Static Routes: <input checked="" type="checkbox"/> Cluster Link LACP Mode
	<< back < cancel > done >> next >>

次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #2] の設定値を入力します。

表 2: ネットワークアダプタ #2 のプライマリノードエントリ: 10 Gbps クラスタポート

[Host IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>クラスタポートの IP アドレスを入力します。これは必須です。クラスタポートのアドレスは後で変更できないことに注意してください。</p> <p>(注) 以前に [Start using DNAC pre manufactured cluster] オプションを選択した場合、[169.254.6.66] がこのフィールドにすでに設定されているため、別のアドレスを入力することはできません。</p>
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 <p>(注) 以前に [Start using DNAC pre manufactured cluster] オプションを選択した場合、[255.255.255.128] がこのフィールドにすでに設定されているため、別のネットマスクを入力することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。

[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。</p> <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>
[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要 クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。</p>
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートをスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ>の形式で入力します。これは通常、管理ポートでのみ必要です。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このポートが Cisco DNA Center クラスタへのリンクであるとして設定するには、このチェックボックスをオンにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>
[LACP Mode] フィールド	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドを空白のままにすると、ポートはアクティブ/バックアップモードで動作します。このモードでは、2 つのイーサネットインターフェイスを 1 つの論理チャンネルに集約することで、耐障害性が提供されます。現在アクティブなインターフェイスがダウンすると、他のインターフェイスが代わりにアクティブになります。 このポートの [LACP] モードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このモードでは、同じ速度とデュプレックス設定を共有する 2 つのイーサネットインターフェイスが 1 つの論理チャンネルに集約されます。これにより、ロードバランシングとより高い帯域幅が提供されます。 <p>Cisco DNA Center の NIC ボンディングの実装に関する詳細については、NIC ボンディングの概要を参照してください。</p> <p>(注) このフィールドは、ステップ 7 でオプションを選択しなかった場合に表示されます。</p>

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ネットワークアダプタの設定がウィザードによって検証され、適用されます。

ステップ 10 入力したクラスタポート値の検証が成功すると、ウィザードに 1 Gbps/10 Gbps 管理ポートが [NETWORK ADAPTER #3] として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明したように、このポート

は管理ネットワークから Cisco DNA Center GUI にアクセスするために使用されます。この目的に適したホスト IP アドレス、ネットマスク、およびその他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。

```

STEP #3
-----
(Optional) Enter the network settings for the 3rd
network adapter -
(- 0 - management network).

Recommended use: management network

Select 'Cluster Link' if used for cluster
communication.

Phy Interfaces: eno1 enp216s0f0

-----
OPTIONAL - NETWORK ADAPTER #3 (management)

Host IPv4 Address:
172.29.131.224
IPv4 Netmask:
255.255.255.0
Default Gateway IPv4 Address:

IPv4 DNS Servers:
171.70.168.183 173.36.131.10
IPv4 Static Routes:
10.0.0.0/255.0.0.0/172.29.131.1 171.0.0.0/255.0.0.0/172.29.13
Cluster Link

<< back      < cancel >      done >>      next >>

```

次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #3] の設定値を入力します。

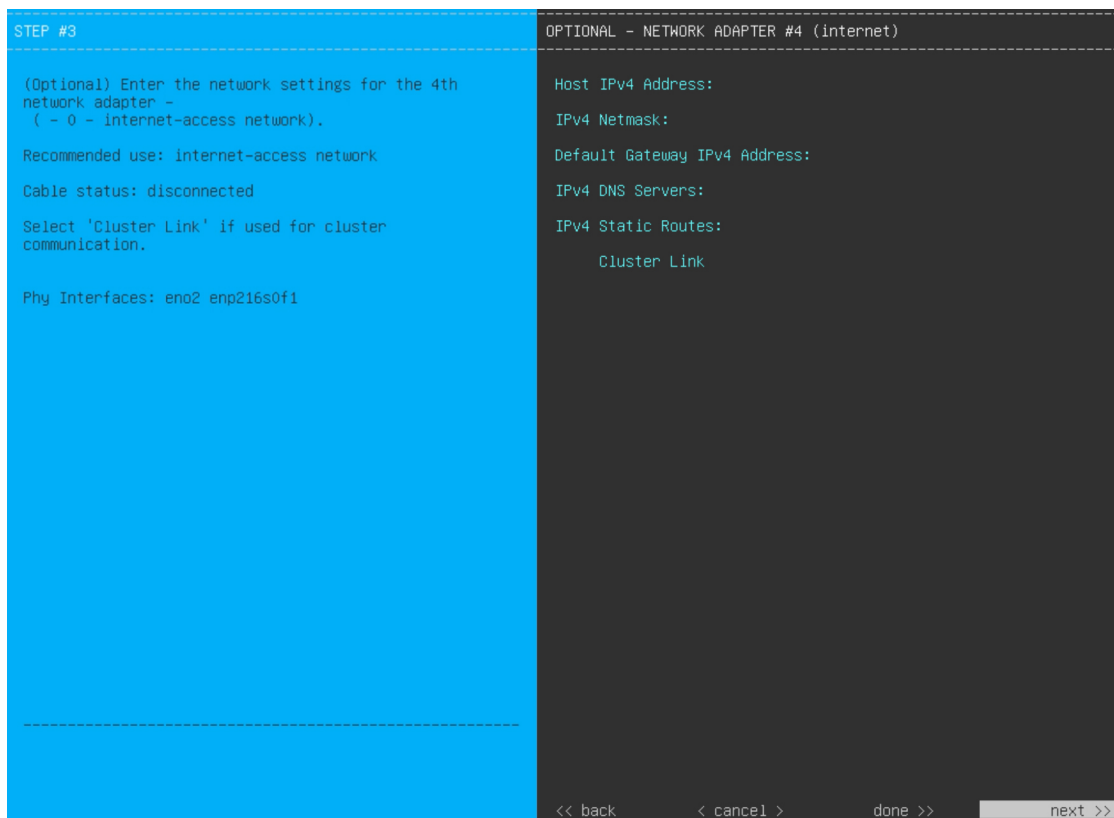
表 3: ネットワークアダプタ #3 のプライマリノードエントリ: 1 Gbps/10 Gbps 管理ポート

[Host IPv4/IPv6 address] フィールド	管理ポートの IP アドレスを入力します。これは、このポートを使用して管理ネットワークから Cisco DNA Center GUI にアクセスする場合にのみ必要です。それ以外の場合は、空白のままにします。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	IP アドレスを入力した場合は、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。

[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。</p> <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>
[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP の場合、Cisco DNA Center と NTP サーバの間のポート 123 (UDP) が開いていることを確認します。 • クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートをスペースで区切り、<ネットワーク><ネットマスク><ゲートウェイ>の形式で入力します。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このフィールドは空欄のままにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ネットワークアダプタの設定がウィザードによって検証され、適用されます。

- ステップ 11** 入力した管理ポート値の検証が成功すると、ウィザードに 1 Gbps/10 Gbps インターネットポートが [NETWORK ADAPTER #4] として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明されているとおり、このポートは、アプライアンスをインターネットにリンクする際、10 Gbps エンタープライズポート経由でアプライアンスをリンクできない場合に使用されるオプションのポートです。この目的に適したホスト IP アドレス、ネットマスク、およびその他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。



次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #4] の設定値を入力します。

表 4: ネットワークアダプタ #4 のプライマリノードエントリー: 1 Gbps/10 Gbps インターネットポート

[Host IPv4/IPv6 address] フィールド	インターネットポートの IP アドレスを入力します。この操作はインターネット接続にインターネットポートを使用している場合にのみ必要です。それ以外の場合は、空白のままにできます。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	IP アドレスを入力した場合は、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。
[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	インターネットポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。 重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。

[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。 重要 クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大3つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して3つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	1つ以上のスタティックルートをスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ>の形式で入力します。これは通常、管理ポートでのみ必要です。
[Cluster Link] フィールド	このフィールドは空欄のままにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ネットワークアダプタの設定がウィザードによって検証され、適用されます。

ステップ 12 ネットワークアダプタの設定が完了すると、次に示すように、ユーザーの使用する **[NETWORK PROXY]** の設定値を入力するようウィザードから求められます。

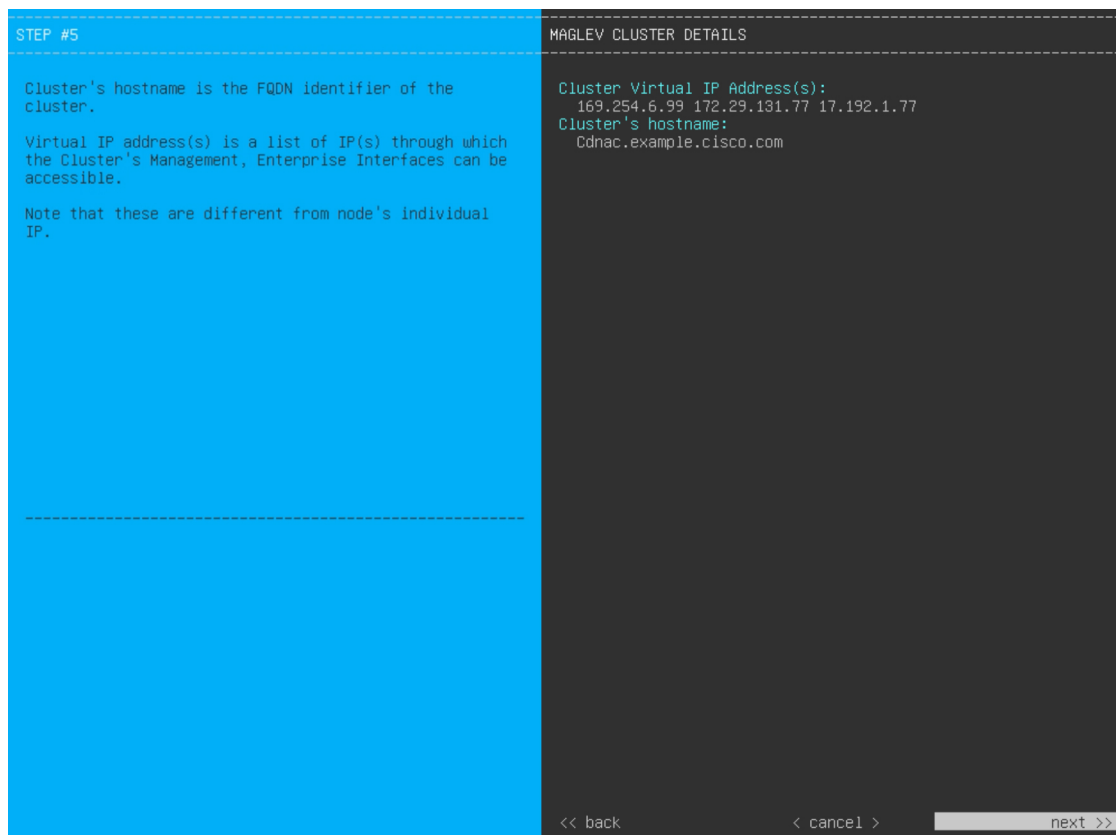
次の表に示すように **[NETWORK PROXY]** の設定値を入力します。

表 5: ネットワークプロキシのプライマリノードエントリ

[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)] フィールド	<p>インターネットにアクセスする HTTPS ネットワークプロキシの URL またはホスト名を入力します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco DNA Center から HTTPS プロキシへの接続は、このリリースの HTTP 経由のみでサポートされます。 • ポート番号を含む IPv6 URL を入力する場合は、URL の IP アドレス部分を角カッコで囲みます。次の例では、443 がポート番号です。 http://[2001:db8:85a3:8d3:1319:8a2e:370:7348]:443/
[HTTPS Proxy Username] フィールド	<p>ネットワークプロキシへのアクセスに使用するユーザ名を入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。</p>
[HTTPS Proxy Password] フィールド	<p>ネットワークプロキシへのアクセスに使用するパスワードを入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。</p>

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 13 ネットワークプロキシの設定が完了すると、次に示すように、**[MAGLEV CLUSTER DETAILS]** で、プライマリノードの仮想 IP アドレスを入力するようウィザードに求められます。



クラスタとネットワークの間のトラフィックに使用される仮想 IP アドレスのスペース区切りリストを入力します。この操作は、3 ノードクラスタと、将来3 ノードクラスタに変換されるシングルノードクラスタの両方の場合に必要です。単一ノードクラスタをセットアップした後、単一ノードクラスタのまま使用し続ける予定の場合には、このステップをスキップして次のステップに進みます。

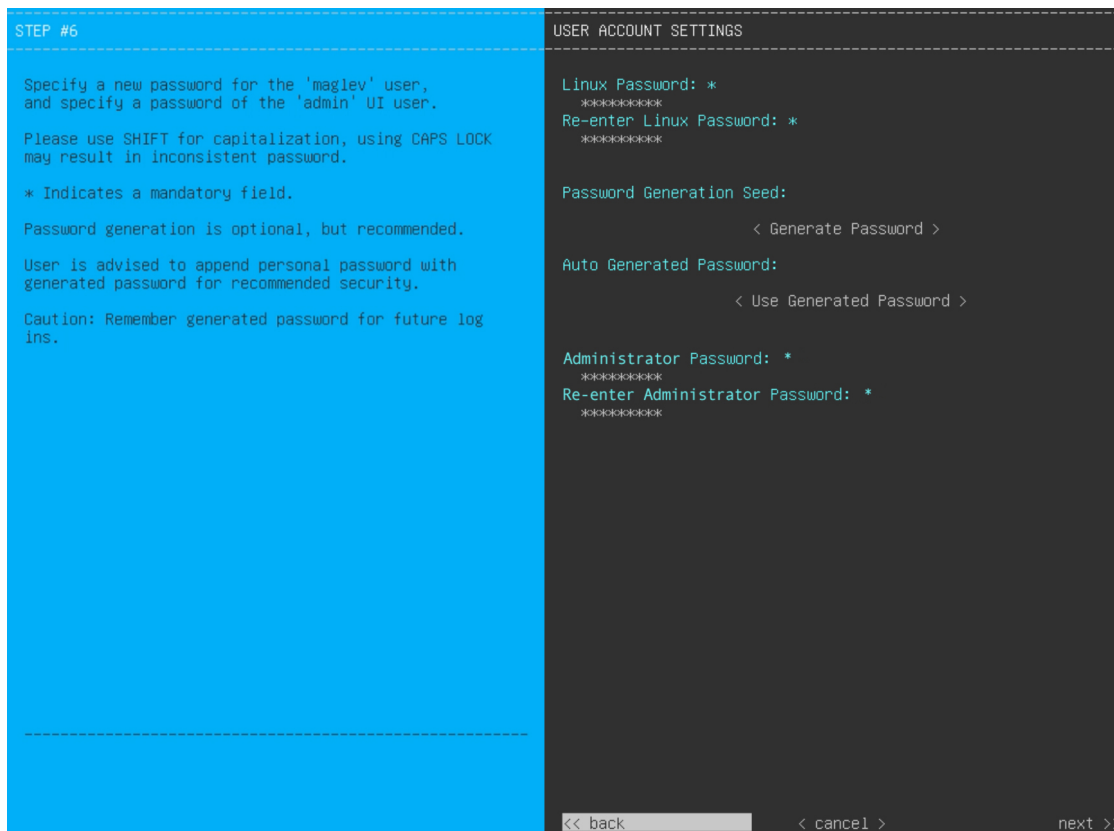
重要 設定済みのネットワークインターフェイスごとに1つずつ仮想 IP アドレスを入力する必要があります。この操作を行わない限り、ウィザードを完了することはできません。これらのアドレスは、クラスタリンクのステータスに関連付けられており、ステータスは[UP]の状態となっている必要があります。

クラスタの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定するオプションもあります。Cisco DNA Center ではこのドメイン名を使用して次の操作が実行されます。

- このホスト名を使用して、クラスタの Web インターフェイスと、Cisco DNA Center が管理するエンタープライズネットワーク内のデバイスによって使用される Representational State Transfer (REST) API にアクセスします。
- Cisco DNA Center 証明書の [Subject Alternative Name (SAN)] フィールドで、FQDN を使用して、デバイスのプロビジョニングに使用されるプラグアンドプレイ サーバが定義されます。

必要な情報を入力したら [Next>>] をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 14 クラスタの詳細を入力すると、次に示すように [USER ACCOUNT SETTINGS] の値を入力するためのウィザードのプロンプトが表示されます。



次の表のとおり [USER ACCOUNT SETTINGS] の値を入力します。

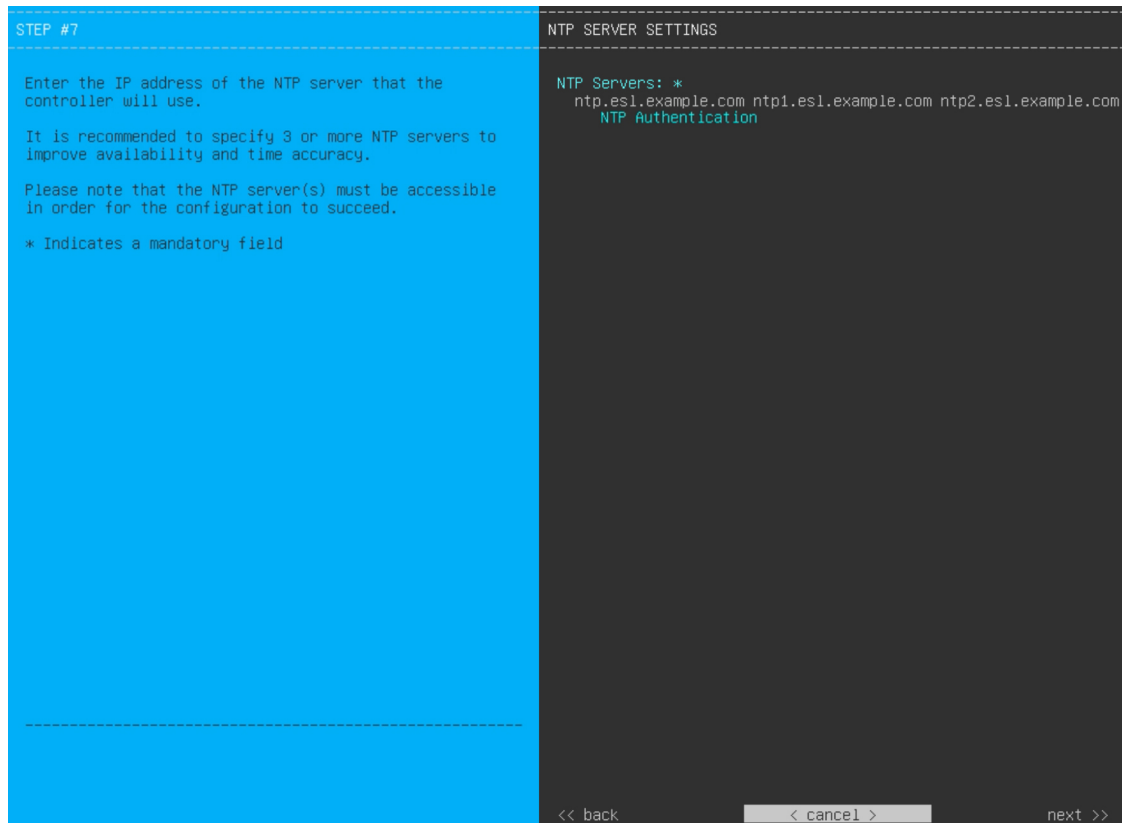
表 6: ユーザアカウント設定のプライマリノードエントリ

[Linux Password] フィールド	8 文字以上の長さの maglev ユーザーの Linux パスワードを入力します。
[Re-enter Linux Password] フィールド	Linux パスワードをもう一度入力して確認します。
[Password Generation Seed] フィールド	Linux パスワードを自分で作成しない場合には、このフィールドにシードフレーズを入力してから、[パスワードの生成 (Generate password)] を押してパスワードを生成します。
[Auto Generated Password] フィールド	(オプション) シードフレーズは、ランダムで安全なパスワードの一部として表示されます。必要に応じて、このパスワードを「そのまま」使用することも、この自動生成パスワードをさらに編集することもできます。 [<Use Generated Password>] を押してパスワードを保存します。

[Administrator Password] フィールド	<p>スーパーユーザ権限を持つ管理者のデフォルトのパスワードを入力します。このパスワードは Cisco DNA Center に初めてログインするときに使用します。</p> <p>次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ウィザードの早い段階で FIPS モードを有効にした場合は、このパスワードが 8 文字以上であることを確認してください。 • ステップ 5 で [Start using DNAC pre manufactured cluster] オプションを選択した場合は、アプライアンスにはデフォルトのパスワード (maglev1@3) がすでに設定されているため、構成ウィザードで変更することはできません。その結果、このフィールドと次のフィールドはこの画面に表示されません。
[Re-enter Administrator Password] フィールド	管理者パスワードをもう一度入力して確認します。

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 15 ユーザーアカウントの詳細を入力すると、[NTP SERVER SETTINGS] の値を入力するようウィザードからメッセージが表示されます。



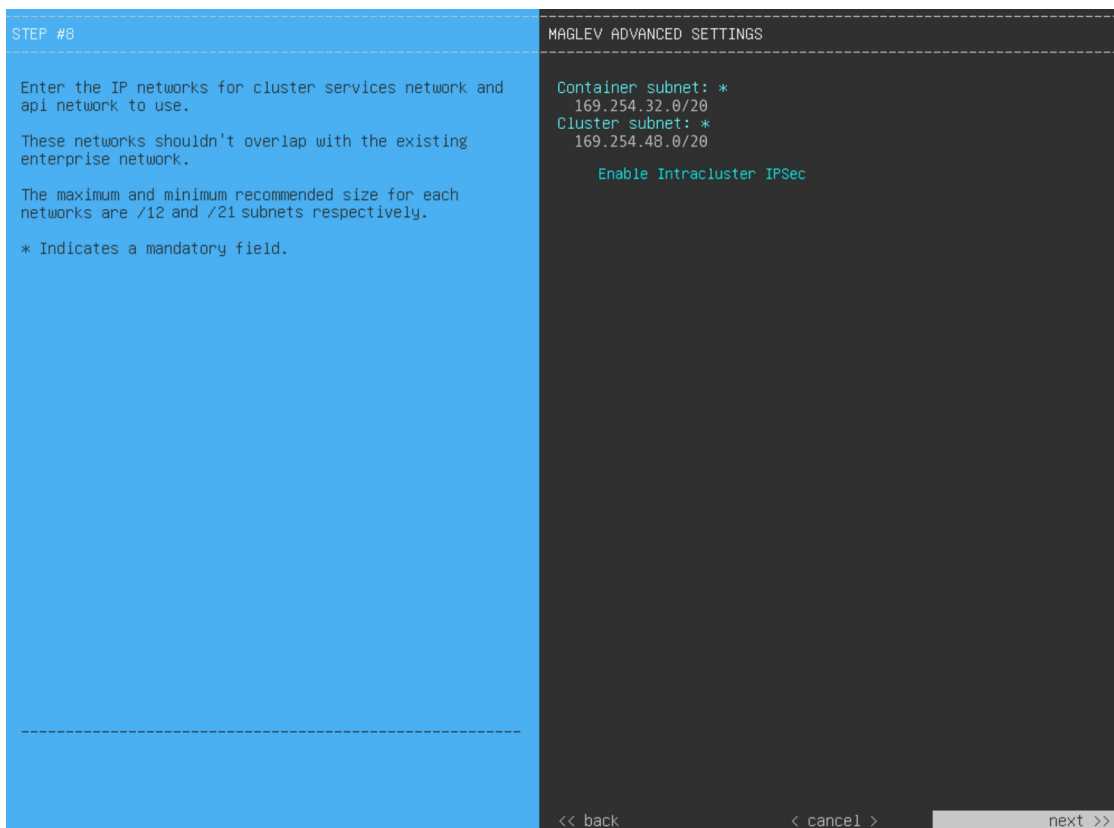
次の表のとおり [NTP SERVER SETTINGS] の値を入力します。

[NTP Server (NTP サーバ)] フィールド	1 つまたは複数の NTP サーバアドレスまたはホスト名をスペースで区切って入力します。1 つ以上の NTP アドレスまたはホスト名が必要です。実稼働環境への展開では、少なくとも 3 台の NTP サーバを設定することを推奨します。
[NTP Authentication] チェックボックス	<p>Cisco DNA Center と同期する前に NTP サーバーの認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、次の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP サーバーのキー ID。有効な値の範囲は 1 ~ 4294967295 ($2^{32}-1$) です。 この値は、NTP サーバーのキーファイルで定義されているキー ID に対応します。 • NTP サーバーのキー ID に関連付けられた SHA-1 キー値。この 40 文字の 16 進文字列は、NTP サーバーのキーファイルにあります。 <p>(注) 前のフィールドで構成した各 NTP サーバーのキー ID とキー値を入力してください。</p>

必要な情報を入力したら [Next>>] をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ウィザードによって、NTP サーバの設定が検証され、適用されます。

ステップ 16 適切な NTP サーバを指定すると、次に示すように、[MAGLEV ADVANCED SETTINGS] の値を入力するようウィザードに求められます。

(注) ステップ 5 で [Start using DNAC pre manufactured cluster] オプションを選択した場合、アプライアンスにはデフォルトのコンテナおよびクラスタサブネットがすでに設定されているため、構成ウィザードで変更することはできません。その結果、次のウィザード画面は表示されません。ステップ 17 に進みます。



次の表に示すように、[MAGLEV ADVANCED SETTINGS] の設定値を入力します。

表 7: *Maglev* 詳細設定のプライマリノードエントリ

[Container Subnet] フィールド	内部サービスを管理するために Cisco DNA Center で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.32.0/20 にあらかじめ設定されています。このサブネットを使用することをお勧めします。別のサブネットを入力する場合は、Cisco DNA Center の内部ネットワークまたは任意の外部ネットワークで使用されている他のサブネットと競合したり、重複したりしていないことを確認してください。詳細については、 必要な IP アドレスおよびサブネットのコンテナサブネット (Container Subnet) に関する説明を参照してください。
--------------------------	---

[Cluster Subnet] フィールド	内部クラスタサービスを管理するために Cisco DNA Center で使用する、ルーティングされない専用の IP サブネット。デフォルトでは、これは 169.254.48.0/20 にあらかじめ設定されています。このサブネットを使用することをお勧めします。別のサブネットを入力する場合は、Cisco DNA Center の内部ネットワークまたは任意の外部ネットワークで使用されている他のサブネットと競合したり、重複したりしていないことを確認してください。詳細については、 必要な IP アドレスおよびサブネットのクラスタサブネット (Cluster Subnet) に関する説明を参照してください。
[Enable Intracluster IPsec] チェックボックス	3 ノードの高可用性 (HA) クラスタ内のノード間の IPsec 接続を有効にする場合にオンにします。

終了したら、[next>>] を選択して続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 17 Maglev 詳細設定の入力が完了すると、ウィザードで設定を適用する準備ができたことを示す最終メッセージが表示されます (以下参照)。

```
The wizard is now ready to apply the configuration on the controller.
Use the [back] button below to verify/modify controller settings.
Use the [cancel] button to discard your changes and exit the wizard.
Use the [proceed] button to save your changes and proceed with applying them on the controller.
```

<< back
< cancel >
proceed >>

[Proceed >>] をクリックして、設定ウィザードを完了します。

ホストが自動的にリブートし、設定を適用してサービスを起動したとのメッセージが KVM コンソールに表示されます。このプロセスには数時間かかることがあります。KVM コンソールでプロセスの進行状況をモニタすることができます。

設定プロセスの最後に、アプライアンスの電源を再投入すると、「設定に成功しました (CONFIGURATION SUCCEEDED!)」というメッセージが表示されます。


```
CONFIGURATION SUCCEEDED

The configuration wizard has completed successfully!

To access the Maglev Web UI, please point your browser to one of the following URLs:

To access the Maglev Web Console, please point your browser to one of the following URLs:

https://17.192.1.224
https://169.254.6.66
https://172.29.131.224

The wizard will automatically close in 30 seconds
```

次のタスク

- このアプライアンスをスタンドアロンモードでのみ展開する場合には、所定の初期設定（「[初期設定ワークフロー](#)」）を実行します。
- アプライアンスをクラスタ内のプライマリノードとして展開する場合には、クラスタ内の 2 番目と 3 番目のインストール済みアプライアンスを設定します（[Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定（25 ページ）](#)）。

Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定

クラスタ内の 2 番目と 3 番目のアプライアンスを設定するには、次の手順を実行します。



重要 3 ノードクラスタを構築するには、同じバージョンのシステムパッケージが 3 つの Cisco DNA Center アプライアンスにインストールされている必要があります。この条件が整わない場合、予期しない動作とダウンタイムの可能性が生じることがあります。



(注) この手順の実行中に入力するすべての IP アドレスが有効な IPv4 ネットマスクを持つ有効な IPv4 アドレスであることを確認してください。また、アドレスと対応するサブネットが重複していないことを確認してください。重複している場合、サービスの通信の問題が発生する可能性があります。



重要 3 ノードクラスタでアプライアンスを設定する前に、それらのアプライアンスからログアウトしていることを確認します。ログアウトしていない場合、クラスタのアプライアンスを設定し、Cisco DNA Center に初めてログインした後に、（ネットワークのデバイスを検出してテレメトリを有効にするために完了する）クイック スタートワークフローが開始されません。

新しいセカンダリノードをクラスタに結合する場合には、クラスタ内の最初のホストをプライマリノードとして指定する必要があります。クラスタにセカンダリノードを結合する際、次の点に注意してください。

- 一度に1つのノードのみをクラスタに結合してください。複数のノードを同時に追加しないでください。同時に追加しようとするると予期しない動作が発生します。
- クラスタに新しいノードを追加する前に、インストールされているすべてのパッケージがプライマリノードに展開されていることを確認してください。展開されているかどうかを確認するには、セキュアシェルを使用して、プライマリノードの Cisco DNA Center 管理ポートに Linux ユーザ (maglev) としてログインしてから、`maglev package status` コマンドを実行します。インストールされているすべてのパッケージは、コマンド出力で「展開済み (DEPLOYED)」と表示されます。次の例では、いくつかのパッケージ (application-policy や sd-access など) がインストールされていません。それらは、ステータスが NOT_DEPLOYED である唯一のパッケージです。セカンダリノードを設定する前に、パッケージのステータスが次のように表示されている必要があります。

```
maglev-1 [main - https://kong-frontend.maglev-system.svc.cluster.local:443]
NAME                                DISPLAY_NAME                        DEPLOYED    AVAILABLE    STATUS    PROGRESS
-----
access-control-application          Access Control Application          -           2.1.369.60050    NOT_DEPLOYED
ai-network-analytics               AI Network Analytics               -           2.6.10.494      NOT_DEPLOYED
app-hosting                         Application Hosting                 -           1.6.6.2201241723    NOT_DEPLOYED
application-policy                  Application Policy                   -           2.1.369.170033    NOT_DEPLOYED
application-registry                Application Registry                 -           2.1.369.170033    NOT_DEPLOYED
application-visibility-service       Application Visibility Service       -           2.1.369.170033    NOT_DEPLOYED
assurance                            Assurance - Base                    2.2.2.485    -              DEPLOYED
automation-core                     NCP - Services                     2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
base-provision-core                 Automation - Base                    2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
cloud-connectivity-contextual-content Cloud Connectivity - Contextual Content 1.3.1.364    -              DEPLOYED
cloud-connectivity-data-hub         Cloud Connectivity - Data Hub       1.6.0.380    -              DEPLOYED
cloud-connectivity-tethering        Cloud Connectivity - Tethering      2.12.1.2    -              DEPLOYED
cloud-provision-core                Cloud Device Provisioning Application - 2.1.369.60050    2.1.369.60050    NOT_DEPLOYED
command-runner                      Command Runner                      2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
device-onboarding                   Device Onboarding                   2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
disaster-recovery                   Disaster Recovery                    2.1.367.360196    -              NOT_DEPLOYED
dna-core-apps                       Network Experience Platform - Core  2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
dnac-platform                       Cisco DNA Center Platform           1.5.1.180    1.5.1.182      DEPLOYED
dnac-search                         Cisco DNA Center Global Search      1.5.0.466    -              DEPLOYED
endpoint-analytics                  AI Endpoint Analytics               -           1.4.375        NOT_DEPLOYED
group-based-policy-analytics         Group-Based Policy Analytics        -           2.2.1.401      NOT_DEPLOYED
icap-automation                     Automation - Intelligent Capture    -           2.1.369.60050    NOT_DEPLOYED
image-management                    Image Management                    2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
machine-reasoning                   Machine Reasoning                    2.1.368.210017    2.1.369.210024    DEPLOYED
ncp-system                           NCP - Base                          2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
ndp-base-analytics                  Network Data Platform - Base Analytics 1.6.1028    1.6.1031      DEPLOYED
ndp-platform                        Network Data Platform - Core        1.6.596    -              DEPLOYED
ndp-ui                               Network Data Platform - Manager     1.6.543    -              DEPLOYED
network-visibility                  Network Controller Platform         2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
path-trace                           Path Trace                           2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
platform-ui                          Cisco DNA Center UI                 1.6.2.446    1.6.2.448      DEPLOYED
rbac-extensions                      RBAC Extensions                     2.1.368.1910001    2.1.369.1910003    DEPLOYED
rogue-management                    Rogue and aWIPS                      2.2.0.51    -              NOT_DEPLOYED
sd-access                            SD Access                            -           2.1.369.60050    NOT_DEPLOYED
sensor-assurance                    Assurance - Sensor                   2.2.2.484    -              NOT_DEPLOYED
sensor-automation                   Automation - Sensor                  2.1.369.60050    -              NOT_DEPLOYED
ssa                                  Stealthwatch Security Analytics      2.1.368.1091226    2.1.369.1091317    DEPLOYED
system                               System                               1.6.594    -              DEPLOYED
system-commons                       System Commons                       2.1.368.60015    2.1.369.60050    DEPLOYED
umbrella                             Cisco Umbrella                       -           2.1.368.592066    NOT_DEPLOYED
wide-area-bonjour                    Wide Area Bonjour                    -           2.4.368.75006    NOT_DEPLOYED

[Wed Nov 30 15:45:08 UTC] maglev@192.0.2.1 (maglev-master-192.0.2.1) ~
```

- 各セカンダリノードのクラスタ接続プロセス中に、一部のサービスのダウンタイムが発生することが予想されます。サービスはすべてのノードに再配布される必要があります、そのプロセスの間、クラスタはダウンします。

始める前に

次のことを確認します。

- Maglev ウィザードを使用したプライマリノードの設定 (2 ページ) の手順に従って、クラスタ内の最初のアプライアンスが設定されたこと。
- 「必要な IP アドレスおよびサブネット」と「必要な設定情報」で指定されているすべての情報が収集されたこと。

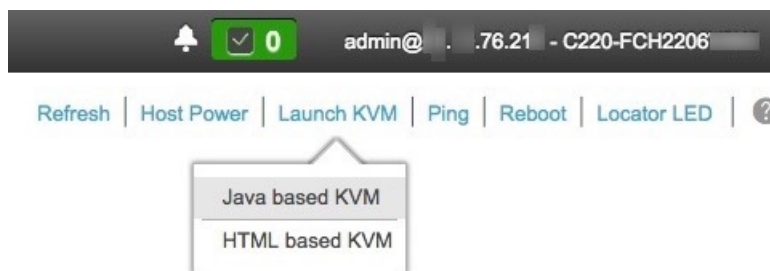
- 「[アプライアンスのインストールワークフロー](#)」の説明に従って、2 番目と 3 番目のアプライアンスがインストールされたこと。
- 以下を完了していること。
 1. 最初のアプライアンスで **maglev package status** コマンドを実行したこと。

Cisco DNA Center GUI からもこの情報にアクセスできます。[Help] アイコン (🔗) をクリックし、[About] > [Packages] の順に選択してください。
 2. Cisco TAC に連絡し、このコマンドの出力を提供して 2 番目と 3 番目のアプライアンスにインストールする必要がある ISO をポイントするよう依頼したこと。
- 「[Cisco Integrated Management Controller に対するブラウザアクセスの有効化](#)」の説明に従って、両方のセカンダリアプライアンスで Cisco IMC に対するブラウザのアクセス権が設定されたこと。
- 「[事前設定チェックの実行](#)」の説明に従って、セカンダリアプライアンスのポートとそれらのポートによって使用されるスイッチの両方が適切に設定されていること。
- 互換性のあるブラウザを使用していることを確認済みであること。互換性のあるブラウザの一覧については、インストールしている Cisco DNA Center のバージョンに対応する [リリースノートドキュメント](#) を参照してください。
- 次の手順で指定するデフォルトゲートウェイおよび DNS サーバと Cisco DNA Center の間のファイアウォールで ICMP が許容されること。Maglev 設定ウィザードでは ping を使用して、ユーザが指定したゲートウェイおよび DNS サーバを確認します。ファイアウォールが配置されており、そのファイアウォールで ICMP が許容されていない場合、この ping がブロックされる可能性があります。ブロックされた場合、ウィザードを完了できません。

ステップ 1

お使いのブラウザで、実行した `cisco imc` GUI 設定で設定した Cisco IMC の IP アドレスをポイントし、`cisco imc` ユーザとして Cisco IMC GUI にログインします（「[Cisco Integrated Management Controller に対するブラウザアクセスの有効化](#)」を参照）。

ログインが成功すると、次に示すように、アプライアンスに **[Cisco Integrated Management Controller Chassis Summary]** ウィンドウが、ウィンドウ上部のハイパーリンクメニューとともに表示されます。



Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定

ステップ 2 ハイパーリンクメニューで [Launch KVM] を選択してから [Java based KVM] と [HTML based KVM] のいずれかを選択します。[Java-based KVM] を選択した場合、KVM コンソールを独自のウィンドウで表示するために、ブラウザまたはファイルマネージャから Java スタートアップファイルを起動する必要があります。[HTML-based KVM] を選択すると、KVM コンソールが別個のブラウザウィンドウまたはタブで自動的に起動します。

選択した KVM のタイプに関係なく、KVM コンソールを使用して、設定の進行状況をモニタし、Maglev 構成ウィザードのプロンプトに応答します。

ステップ 3 KVM が表示されたら、次のいずれかを選択してアプライアンスをリブートします。

- メインの Cisco IMC GUI ブラウザウィンドウで、[Host Power] > [Power Cycle] を選択し、KVM コンソールに切り替えて続行します。
- KVM コンソールで、[Power] > [Power Cycle System (cold boot)] を選択します。

アプライアンスをリブートするかどうかの確認を求められたら、[OK] をクリックします。

リブートメッセージが表示された後、KVM コンソールに Maglev 構成ウィザードのウェルカム画面が表示されます。

```
Welcome to the Maglev Configuration Wizard!

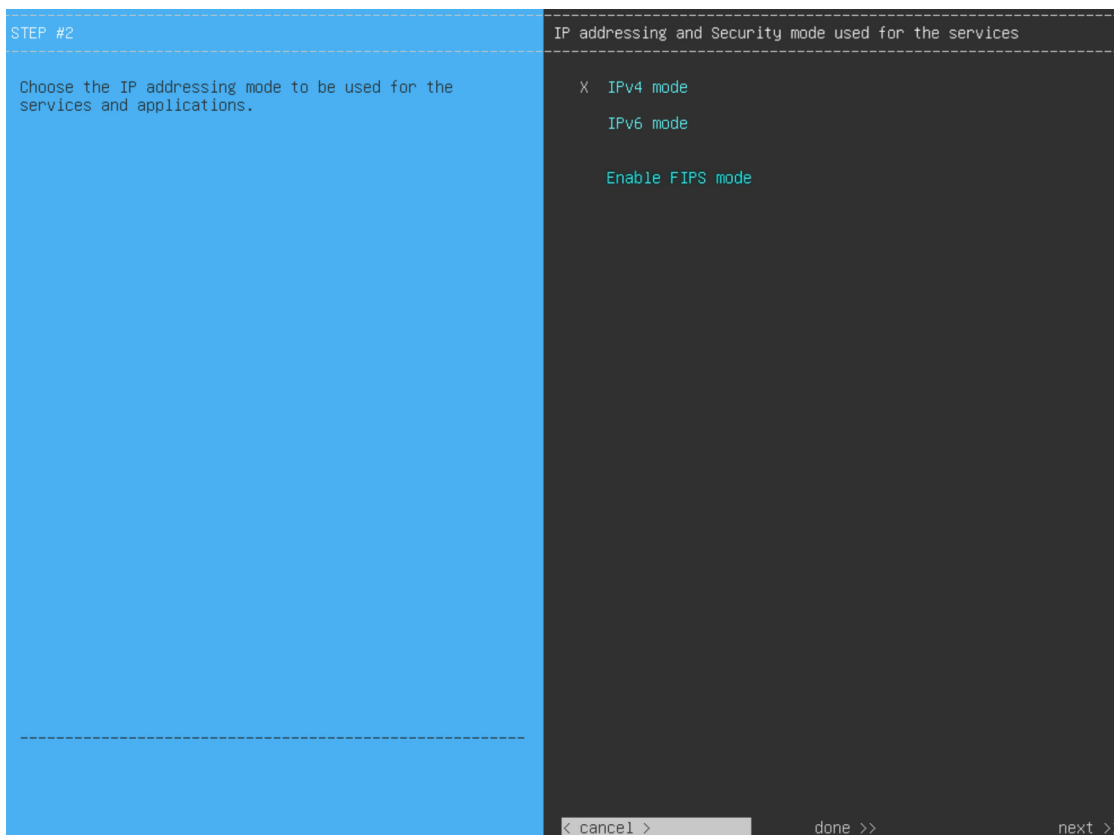
The wizard will walk you through the steps to configure this host. Select one of the options below to specify how you
would like to configure this host:

Start a Cisco DNA Center Cluster
Join a Cisco DNA Center Cluster

< exit >

Web installation: https://172.29.131.224:9004/
```

ステップ 4 [Join a Cisco DNA Center Cluster] を選択して、セカンダリノードの設定を開始します。画面が更新されます。



ステップ 5 次の手順を実行し、[next>>] をクリックして続行します。

- Cisco DNA Center アプライアンスで実行されているアプリケーションとサービスが IPv4 または IPv6 アドレッシングを使用するかどうかを指定します。
- (任意) Cisco DNA Center アプライアンスで FIPS モードを有効にするには、[Enable FIPS Mode] チェックボックスをオンにします。

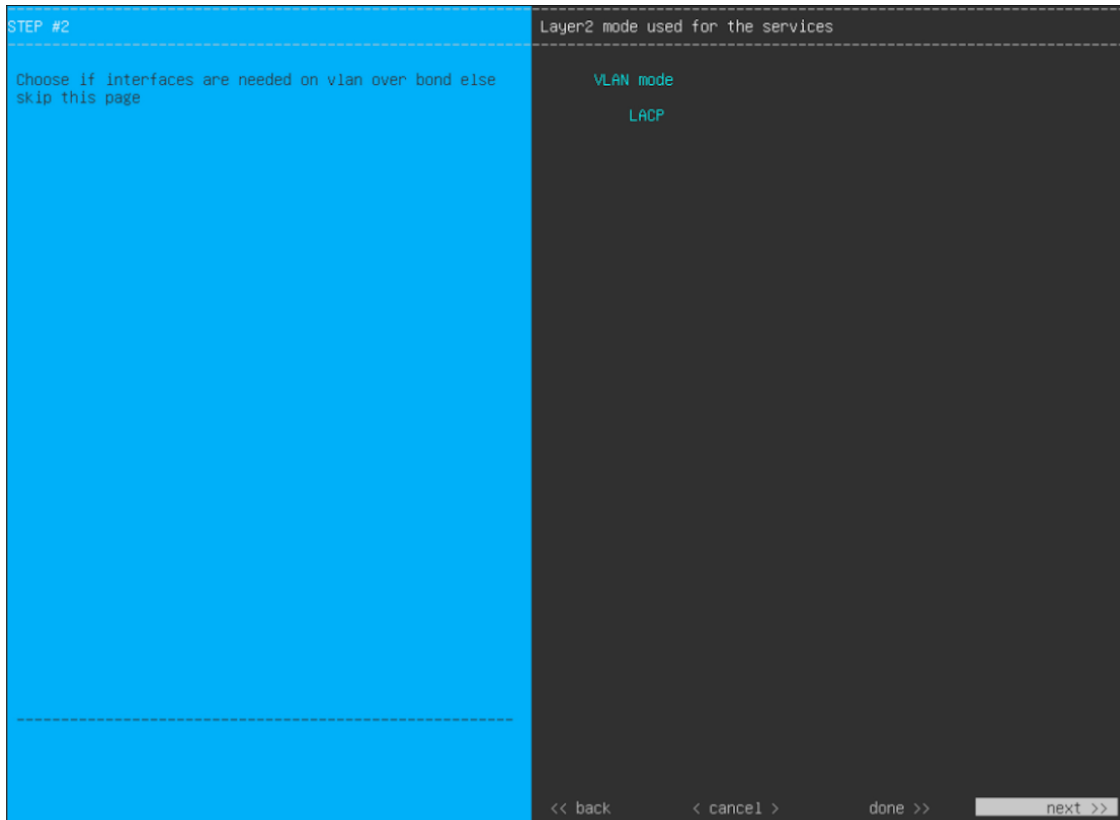
次の点に注意してください。

- リリース 2.3.3 以降、Cisco DNA Center は連邦情報処理標準 (FIPS) をサポートしています。これは、暗号化アルゴリズムの実装、キー情報とデータバッファの処理、およびオペレーティングシステムの操作に関するベストプラクティスを指定する政府認証標準です。FIPS モードが有効になっている場合、URL からイメージをインポートすることはできません。コンピュータまたは cisco.com からのみイメージをインポートできます。また、[USER ACCOUNT SETTINGS] 画面で、デフォルトの管理スーパーユーザー用に 8 文字以上のパスワードを入力する必要があります。
- この Maglev 構成ウィザード画面は、FIPS モードを有効にできる唯一の場所です。
- 前の手順で [Start using DNAC pre manufactured cluster] オプションを選択した場合、このウィザード画面は表示されません。その結果、FIPS モードを有効化できません。
- Cisco DNA Center は、FIPS モードが有効になっている場合、SNMPv2c デバイスクレデンシャルをサポートしません。代わりに、SNMPv3 クレデンシャルを指定する必要があります。

- 以前の Cisco DNA Center バージョンからアップグレードされたアプライアンスでは FIPS モードを有効化できません。バージョン 2.3.3 がすでにインストールされているアプライアンスでのみ有効化できます。
- アプライアンスで FIPS モードを有効化した後で、無効化できる唯一の方法は、アプライアンスのイメージを再作成することです（既存のデータをすべて消去するため）。その後、FIPS モードを無効化してアプライアンスを再構成できます。詳細については、「[アプライアンスのイメージの再作成](#)」を参照してください。
- アプライアンスを構成した後、次の操作を実行して、FIPS モードが有効になっているかどうかを確認できます。
 1. アプライアンスの SSH コンソールを開き、`ssh -p 2222 maglev@appliance's-IP-address` コマンドを実行します。
 2. デフォルトの管理スーパーユーザーのパスワードを入力して、アプライアンスにログインします。
 3. `magctl fips status` コマンドを実行します。

ステップ 6 (オプション) アプライアンスのレイヤ 2 LACP ポートチャンネルモード (VLAN タギングあり) を設定するには、[VLAN mode] と [LACP] オプションの両方を選択します。選択したら、[next>>] をクリックして続行します。

重要 [VLAN mode] オプションは dot1q/VLAN トランキングを有効にし、[LACP] オプションは NIC ボンディングモードを有効にして、アプライアンスのエンタープライズ インターフェイスおよびクラスタ内インターフェイスにロードバランシングとより高い帯域幅を提供します。このオプションの組み合わせは一般的には使用されないため、Cisco DNA Center の展開で必要な場合にのみ両方を選択してください。NIC ボンディングのみを有効にする場合は、次の 2 つのウィザード画面で有効にできます。

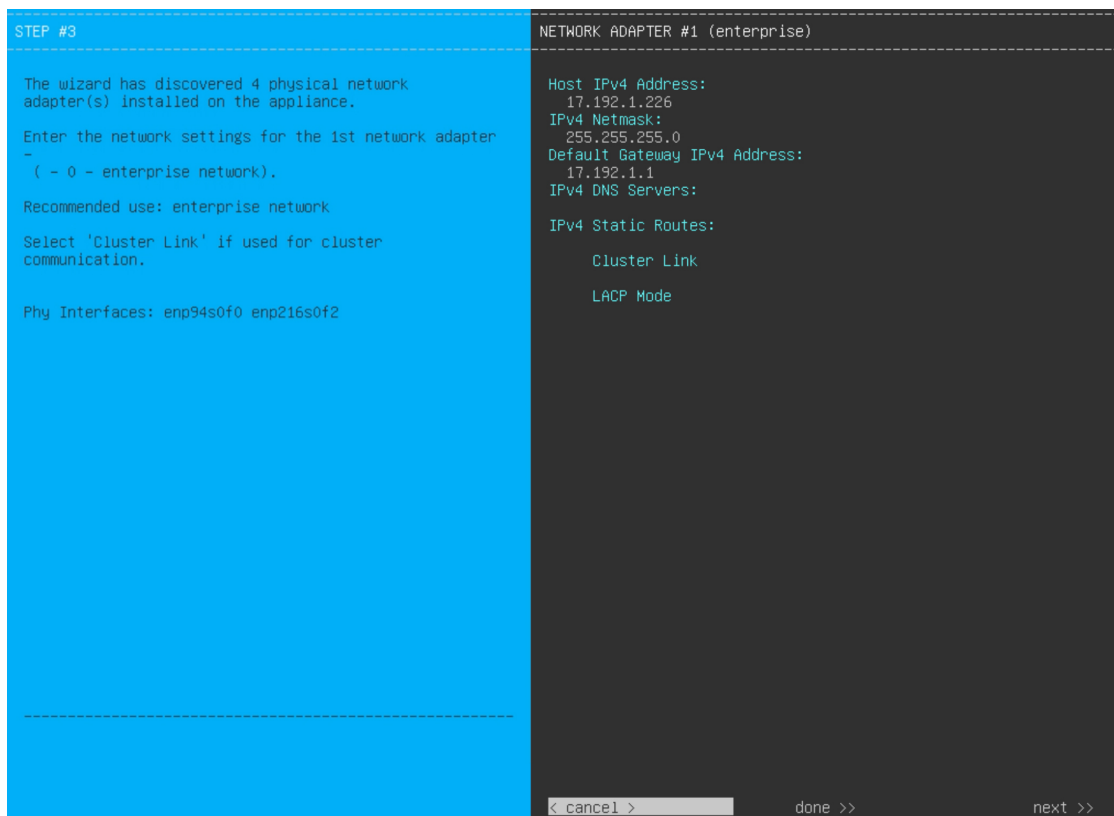


ウィザードでは、アプライアンス上のすべてのポートが検出され、次の順序で1つずつ別の画面に表示されます。

1. (必須) 10 Gbps エンタープライズポート：ネットワークアダプタ #1
2. (必須) 10 Gbps クラスタポート：ネットワークアダプタ #2
3. (任意) 1 Gbps/10 Gbps 管理ポート：ネットワークアダプタ #3
4. (任意) 1 Gbps/10 Gbps インターネットポート：ネットワークアダプタ #4

設定の過程でウィザードがエンタープライズポートとクラスタポートのいずれかまたは両方を表示できない場合は、これらのポートが機能していないか、または無効になっている可能性があります。Cisco DNA Center 機能にはこの2つのポートが必要です。機能していないことが判明した場合には、**[Cancel]**を選択し、すぐに設定を終了します。設定を再開したり、Cisco Technical Assistance Center に連絡したりする前に「[事前設定チェックの実行](#)」に記載されているすべての手順が完了していることを確認してください（詳細については『[リリースノート](#)』の「[Get Assistance from the Cisco TAC](#)」を参照してください）。

ステップ7 ウィザードにより、最初に 10 Gbps エンタープライズポートが NETWORK ADAPTER #1 として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明したように、このポートは、アプライアンスをエンタープライズネットワークにリンクするために必要なポートです。この目的に適したホスト IP アドレス、ネットマスク、およびその他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。



次の表のとおり [ネットワークアダプタ #1 (NETWORK ADAPTER #1)] の設定値を入力します。

表 8: ネットワークアダプタ #1 のセカンダリノードエントリ: 10 Gbps エンタープライズポート

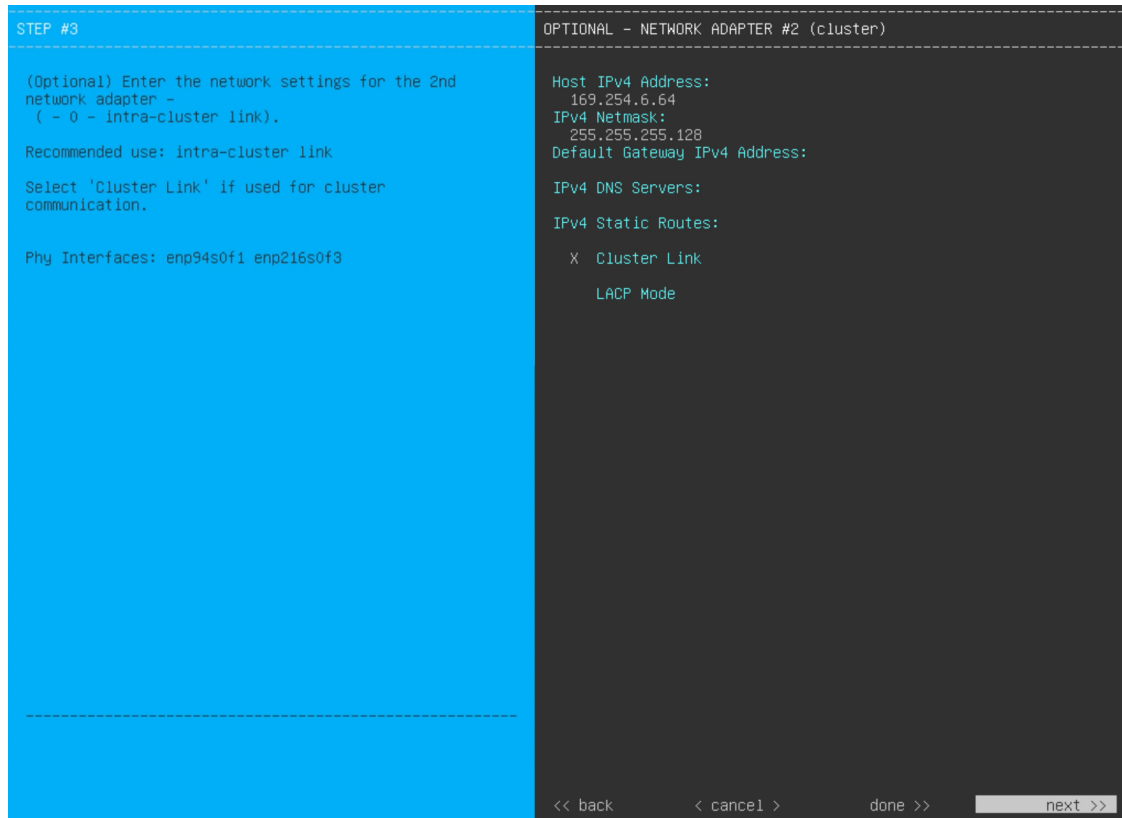
[Host IPv4/IPv6 Address] フィールド	エンタープライズポートの IP アドレスを入力します。これは必須です。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	IP アドレスを入力した場合は、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。

[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。</p> <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>
[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要 クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。</p>
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ> の形式で入力します。これは通常、Cisco DNA Center 管理ポートでのみ必要です。</p>
[Vlan Id of Interface] フィールド	<p>設定するアプライアンス用に作成される LACP リンク上でタグ付けされる VLAN ID を入力します。</p> <p>(注) このフィールドは、前の手順で両方のオプションを選択してアプライアンスのレイヤ 2 LACP ポートチャネルモードを設定した場合にのみ表示されます。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このフィールドは空欄のままにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>

[LACP Mode] フィールド	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドを空白のままにすると、ポートはアクティブ/バックアップモードで動作します。このモードでは、2つのイーサネットインターフェイスを1つの論理チャネルに集約することで、耐障害性が提供されます。現在アクティブなインターフェイスがダウンすると、他のインターフェイスが代わりにアクティブになります。 このポートの [LACP] モードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このモードでは、同じ速度とデュプレックス設定を共有する2つのイーサネットインターフェイスが1つの論理チャネルに集約されます。これにより、ロードバランシングとより高い帯域幅が提供されます。 <p>Cisco DNA Center の NIC ボンディングの実装に関する詳細については、NIC ボンディングの概要を参照してください。</p> <p>(注) このフィールドは、前の手順でオプションを選択しなかった場合に表示されます。</p>
-------------------	--

設定値の入力が完了したら、**[next >>]** をクリックして続行します。入力した値がウィザードによって検証され、正しくない値が含まれていた場合にはエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合には、入力した値が正しいことを確認してから、再入力します。必要に応じて **[<< back]** をクリックして再入力します。

- ステップ 8** 入力したエンタープライズポート値の検証が成功すると、ウィザードに 10 Gbps クラスポートが [NETWORK ADAPTER #2] として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明したように、このポートはアプライアンスをクラスタにリンクするために使用されるため、ホスト IP アドレス、ネットマスク、およびこの目的に適した他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。



次の表のとおり **[NETWORK ADAPTER #2]** の設定値を入力します。

表 9: ネットワークアダプタ #2 のセカンダリノードエントリ: 10 Gbps クラスタポート

[Host IPv4/IPv6 address] フィールド	クラスタポートの IP アドレスを入力します。これは必須です。クラスタポートのアドレスは後で変更できないことに注意してください。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	IP アドレスを入力した場合は、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。

[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。</p> <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>
[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要 クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。</p>
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ>の形式で入力します。これは通常、管理ポートでのみ必要です。</p>
[Vlan Id of Interface] フィールド	<p>設定するアプライアンス用に作成される LACP リンク上でタグ付けされる VLAN ID を入力します。</p> <p>(注) このフィールドは、ステップ 6 で両方のオプションを選択してアプライアンスのレイヤ 2 LACP ポートチャネルモードを設定した場合にのみ表示されます。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このポートが Cisco DNA Center クラスタへのリンクであるとして設定するには、このチェックボックスをオンにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>

[LACP Mode] フィールド	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このフィールドを空白のままにすると、ポートはアクティブ/バックアップモードで動作します。このモードでは、2つのイーサネットインターフェイスを1つの論理チャンネルに集約することで、耐障害性が提供されます。現在アクティブなインターフェイスがダウンすると、他のインターフェイスが代わりにアクティブになります。 このポートの [LACP] モードを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このモードでは、同じ速度とデュプレックス設定を共有する2つのイーサネットインターフェイスが1つの論理チャンネルに集約されます。これにより、ロードバランシングとより高い帯域幅が提供されます。 <p>Cisco DNA Center の NIC ボンディングの実装に関する詳細については、NIC ボンディングの概要を参照してください。</p> <p>(注) このフィールドは、ステップ 6 でオプションを選択しなかった場合に表示されます。</p>
-------------------	---

必要な情報を入力したら [Next >>] をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ネットワークアダプタの設定がウィザードによって検証され、適用されます。

- ステップ 9** 入力したクラスタポート値の検証が成功すると、ウィザードに 1 Gbps/10 Gbps 管理ポートが [NETWORK ADAPTER #3] として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明したように、このポートは管理ネットワークから Cisco DNA Center GUI にアクセスするために使用されます。この目的に適したホスト IP アドレス、ネットマスク、およびその他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。

```

STEP #3
(Optional) Enter the network settings for the 3rd
network adapter -
(- 0 - management network).

Recommended use: management network

Select 'Cluster Link' if used for cluster
communication.

Phy Interfaces: eno1 enp216s0f0

OPTIONAL - NETWORK ADAPTER #3 (management)

Host IPv4 Address:
172.29.131.226
IPv4 Netmask:
255.255.255.0
Default Gateway IPv4 Address:

IPv4 DNS Servers:
171.70.168.183 173.36.131.10
IPv4 Static Routes:
10.0.0.0/255.0.0.0/172.29.131.1 171.0.0.0/255.0.0.0/172.29.13
Cluster Link

<< back      < cancel >      done >>      next >>

```

次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #3]の設定値を入力します。

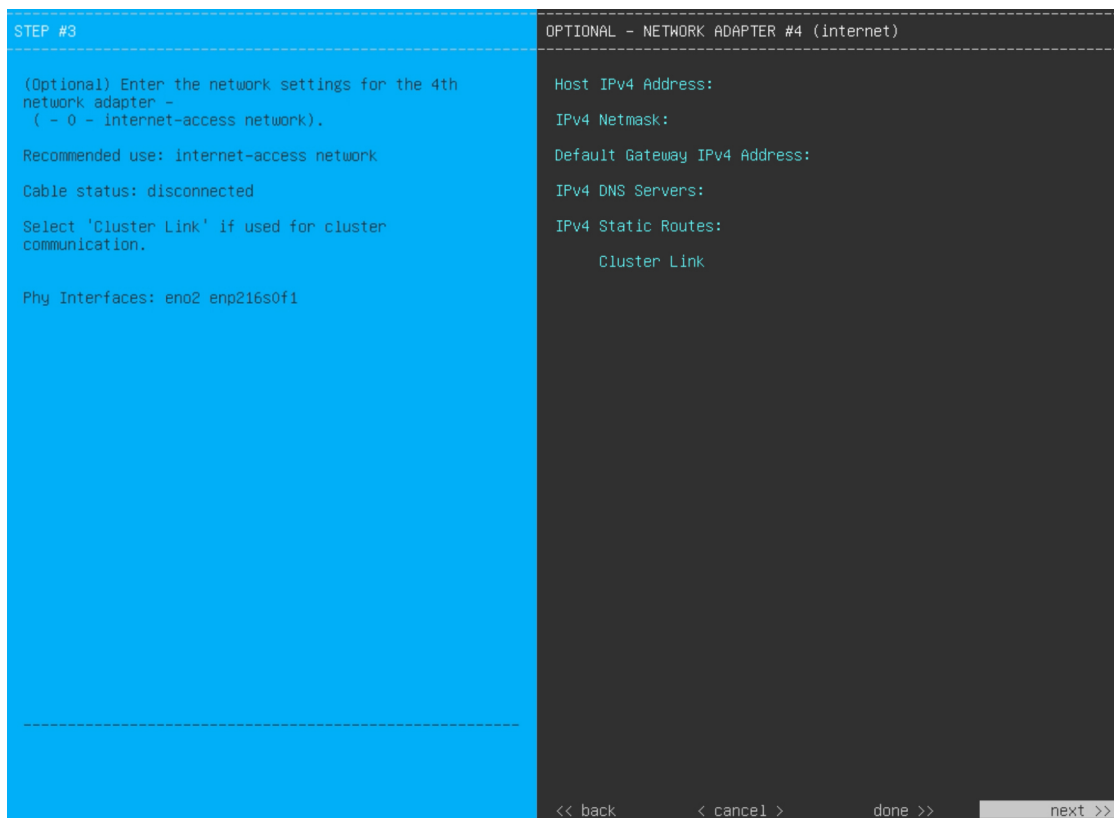
表 10: ネットワークアダプタ #3のセカンダリノードエントリ: 1 Gbps/10 Gbps 管理ポート

[Host IPv4/IPv6 address] フィールド	管理ポートの IP アドレスを入力します。これは、このポートを使用して管理ネットワークから Cisco DNA Center GUI にアクセスする場合にのみ必要です。それ以外の場合は、空白のままにします。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。

[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>ポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力してください。</p> <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>
[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP の場合、Cisco DNA Center と NTP サーバの間のポート 123 (UDP) が開いていることを確認します。 • クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ> の形式で入力します。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このフィールドは空欄のままにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ネットワークアダプタの設定がウィザードによって検証され、適用されます。

- ステップ 10** 入力した管理ポート値の検証が成功すると、ウィザードに 1 Gbps/10 Gbps インターネットポートが **[NETWORK ADAPTER #4]** として表示されます。「[インターフェイスケーブル接続](#)」で説明されているとおり、このポートは、アプライアンスをインターネットにリンクする際、10 Gbps エンタープライズポート経由でアプライアンスをリンクできない場合に使用されるオプションのポートです。この目的に適したホスト IP アドレス、ネットマスク、およびその他の値を適用します（入力する値については、「[必要な IP アドレスおよびサブネット](#)」と「[必要な設定情報](#)」を参照してください）。



次の表のとおり [NETWORK ADAPTER #4] の設定値を入力します。

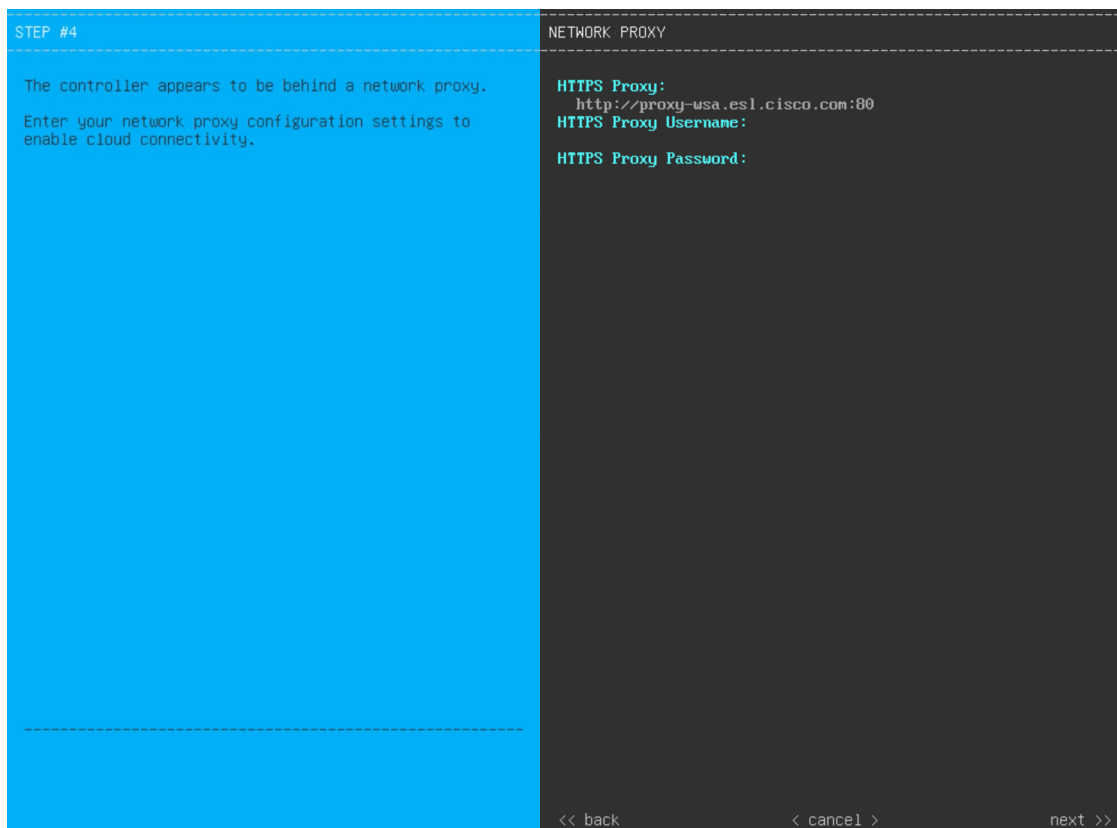
表 11: ネットワークアダプタ #4 のセカンダリノードエントリ : 1 Gbps/10 Gbps インターネットポート

[Host IPv4/IPv6 address] フィールド	インターネットポートの IP アドレスを入力します。この操作はインターネット接続にインターネットポートを使用している場合にのみ必要です。それ以外の場合は、空白のままにできます。
[IPv4 Netmask/IPv6 Prefix Length] フィールド	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • IPv4 アドレッシングを選択した場合は、ポートの IP アドレスのネットマスクを入力します。これは必須です。 • IPv6 アドレッシングを選択した場合は、プレフィックス長（ビット単位）を入力します。有効な値の範囲は 10 ~ 127 です。

[Default Gateway IPv4/IPv6 address] フィールド	<p>インターネットポートに使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。</p> <p>重要 アプライアンスの少なくとも 1 つのインターフェイスに対してデフォルトゲートウェイ IP アドレスを入力してください。入力しないと、設定ウィザードを完了できません。</p>
[IPv4/IPv6 DNS Servers] フィールド	<p>優先 DNS サーバの IP アドレスを入力します。複数の DNS サーバを入力する場合には、リスト内の IP アドレスをスペースで区切ります。</p> <p>重要 クラスタ内の各アプライアンスに対して、最大 3 つの DNS サーバを設定します。アプライアンスに対して 3 つを超える DNS サーバを設定すると、問題が発生する可能性があります。</p>
[IPv4/IPv6 Static Routes] フィールド	<p>1 つ以上のスタティックルートスペースで区切り、<ネットワーク>/<ネットマスク>/<ゲートウェイ>の形式で入力します。これは通常、管理ポートでのみ必要です。</p>
[Cluster Link] フィールド	<p>このフィールドは空欄のままにします。この操作はクラスタポートでのみ必要になります。</p>

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ネットワークアダプタの設定がウィザードによって検証され、適用されます。

ステップ 11 ネットワークアダプタの設定が完了すると、次に示すように、ユーザの使用する **[NETWORK PROXY]** の設定値を入力するようウィザードから求められます。



次の表に示すように [NETWORK PROXY] の設定値を入力します。

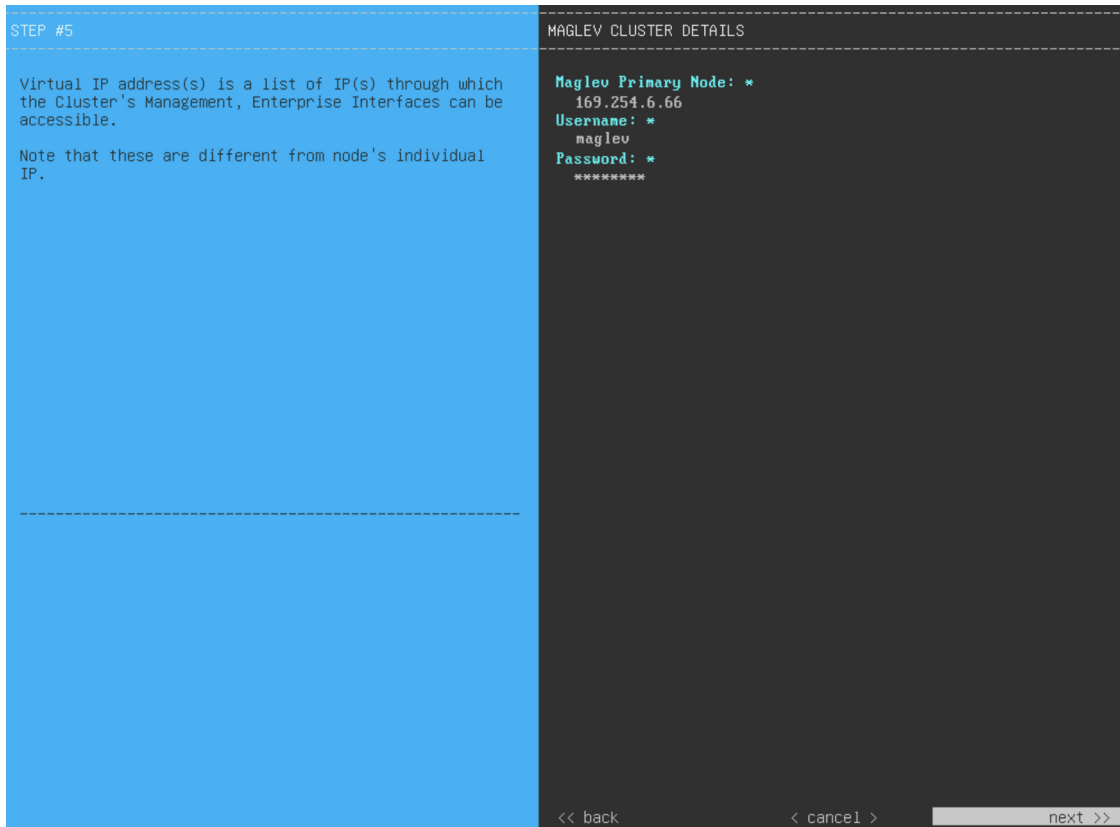
表 12: ネットワークプロキシのセカンダリノードエントリ

[HTTPS プロキシ (HTTPS Proxy)] フィールド	<p>インターネットにアクセスする HTTPS ネットワークプロキシの URL またはホスト名を入力します。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco DNA Center から HTTPS プロキシへの接続は、このリリースの HTTP 経由のみでサポートされます。 • ポート番号を含む IPv6 URL を入力する場合は、URL の IP アドレス部分を角カッコで囲みます。次の例では、443 がポート番号です。 http://[2001:db8:85a3:8d3:1319:8a2e:370:7348]:443/
[HTTPS Proxy Username] フィールド	<p>ネットワークプロキシへのアクセスに使用するユーザ名を入力します。プロキシログインが不要な場合には、このフィールドを空白のままにします。</p>

[HTTPS Proxy Password] フィールド	ネットワークプロキシへのアクセスに使用するパスワードを入力します。プロキシログインが必要ない場合には、このフィールドを空白のままにします。
------------------------------	---

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 12 ネットワークプロキシの設定が完了すると、次に示すように、**[MAGLEV CLUSTER DETAILS]** に、プライマリノードのクラスタポートとプライマリノードのログインに関する詳細を特定するためのウィザードのプロンプトが表示されます。



次の表の説明に従って、**[MAGLEV CLUSTER DETAILS]** に値を入力します。

表 13: **[MAGLEV CLUSTER DETAILS]** のセカンダリノードエントリ

[Maglev Primary Node] フィールド	クラスタ内のプライマリノードのクラスタポートの IP アドレスを入力します。ポート割り当ての推奨事項に従っている場合、これはプライマリノードのネットワークアダプタ #2 の IP アドレスです。
[Username] フィールド	maglev と入力します。
Password フィールド	プライマリノードで設定した Linux パスワードを入力します。

必要な情報を入力したら **[Next>>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 13 クラスタの詳細を入力すると、次に示すように **[USER ACCOUNT SETTINGS]** の値を入力するためのウィザードのプロンプトが表示されます。

STEP #6

Specify a new password for the 'maglev' user, and specify a password of the 'admin' UI user.

Please use SHIFT for capitalization, using CAPS LOCK may result in inconsistent password.

* Indicates a mandatory field.

Password generation is optional, but recommended.

User is advised to append personal password with generated password for recommended security.

Caution: Remember generated password for future log ins.

USER ACCOUNT SETTINGS

Linux Password: *

Re-enter Linux Password: *

Password Generation Seed:
< Generate Password >

Auto Generated Password:
< Use Generated Password >

Administrator Password: *

Re-enter Administrator Password: *

<< back < cancel > next >>

次の表のとおり **[USER ACCOUNT SETTINGS]** の値を入力します。

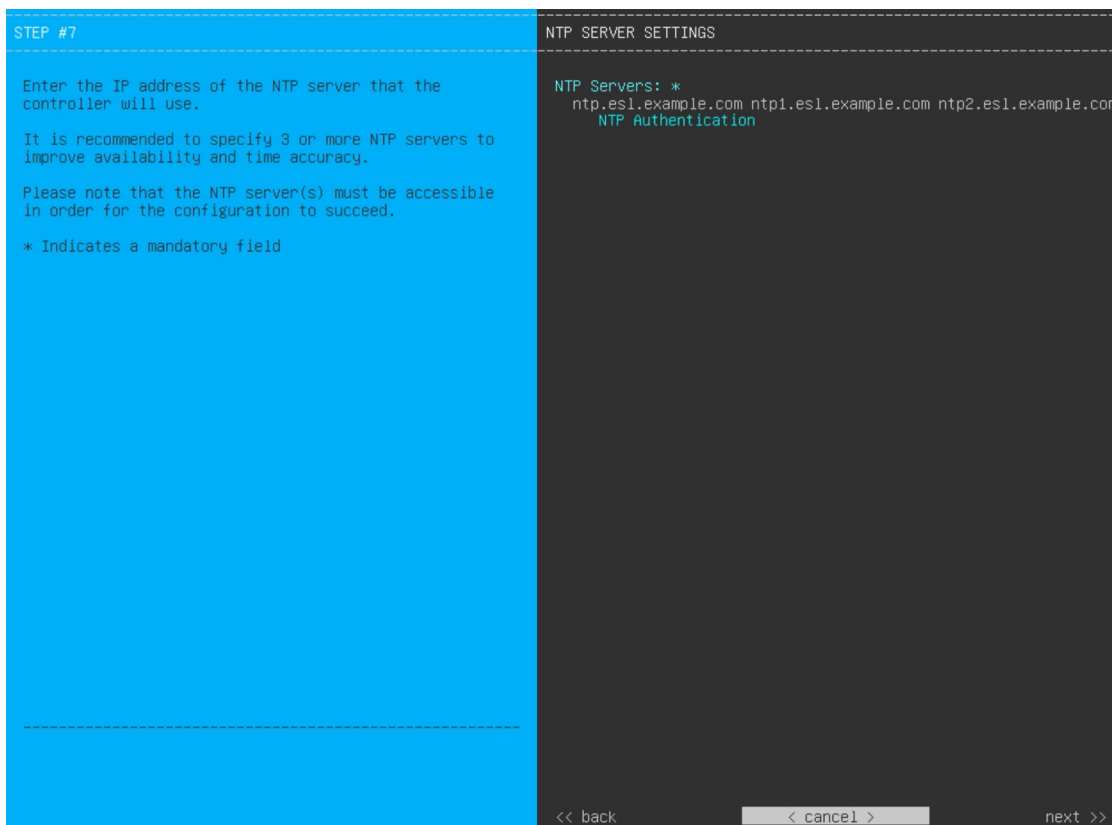
表 14: **[USER ACCOUNT SETTINGS]** のセカンダリノードエントリ

[Linux Password] フィールド	maglev ユーザの Linux パスワードを入力します。
[Re-enter Linux Password] フィールド	Linux パスワードをもう一度入力して確認します。
[Password Generation Seed] フィールド	Linux パスワードを自分で作成しない場合には、このフィールドにシードフレーズを入力してから、 [パスワードの生成 (Generate password)] を押してパスワードを生成します。

[Auto Generated Password] フィールド	(オプション) シードフレーズは、ランダムで安全なパスワードの一部として表示されます。必要に応じて、このパスワードを「そのまま」使用することも、この自動生成パスワードをさらに編集することもできます。 [<Use Generated Password>]をクリックしてパスワードを保存します。
[Administrator Password] フィールド	スーパーユーザ権限を持つ管理者のデフォルトのパスワードを入力します。このパスワードは Cisco DNA Center に初めてログインするときに使用します。
[Re-enter Administrator Password] フィールド	管理者パスワードをもう一度入力して確認します。

必要な情報を入力したら [Next >>] をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。

ステップ 14 ユーザーアカウントの詳細を入力すると、[NTP SERVER SETTINGS] の値を入力するようウィザードからメッセージが表示されます。



次の表のとおり [NTP SERVER SETTINGS] の値を入力します。

[NTP Server (NTP サーバ)] フィールド	1 つまたは複数の NTP サーバアドレスまたはホスト名をスペースで区切って入力します。1 つ以上の NTP アドレスまたはホスト名が必要です。実稼働環境への展開では、少なくとも 3 台の NTP サーバを設定することを推奨します。
[NTP Authentication] チェックボックス	<p>Cisco DNA Center と同期する前に NTP サーバーの認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにして、次の情報を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NTP サーバーのキー ID。有効な値の範囲は 1 ~ 4294967295 ($2^{32}-1$) です。 この値は、NTP サーバーのキーファイルで定義されているキー ID に対応します。 • NTP サーバーのキー ID に関連付けられた SHA-1 キー値。この 40 文字の 16 進文字列は、NTP サーバーのキーファイルにあります。 <p>(注) 前のフィールドで構成した各 NTP サーバーのキー ID とキー値を入力してください。</p>

必要な情報を入力したら **[Next >>]** をクリックして続行します。以前の画面でしたように、検証エラーを修正します。ウィザードによって、NTP サーバの設定が検証され、適用されます。

ステップ 15 NTP サーバ設定の入力が完了すると、ウィザードで設定を適用する準備ができたことを示す最終メッセージが表示されます (以下参照)。

```
The wizard is now ready to apply the configuration on the controller.

Use the [back] button below to verify/modify controller settings.
Use the [cancel] button to discard your changes and exit the wizard.
Use the [proceed] button to save your changes and proceed with applying them on the controller.

<< back                               < cancel >                               proceed >>
```

[Proceed >>] をクリックして、設定ウィザードを完了します。

ホストが自動的にリブートし、設定を適用してサービスを起動したとのメッセージが KVM コンソールに表示されます。このプロセスには数時間かかることがあります。KVM コンソールでプロセスの進行状況をモニタすることができます。

設定プロセスの最後に、アプライアンスの電源を再投入すると、「設定に成功しました (CONFIGURATION SUCCEEDED!)」というメッセージが表示されます。

```
CONFIGURATION SUCCEEDED

The configuration wizard has completed successfully!

To access the Maglev Web UI, please point your browser to one of the following URLs:

To access the Maglev Web Console, please point your browser to one of the following URLs:

https://17.192.1.226
https://169.254.6.64
https://172.29.131.226

The wizard will automatically close in 30 seconds
```

次のタスク

- クラスタ内の3番目および最後のノードとして展開する追加のアプライアンスがある場合には、この手順を繰り返します。
- クラスタへのホストの追加が終了したら、初回セットアップ（「初期設定ワークフロー」）を実行します。

最新の Cisco DNA Center リリースへのアップグレード

Cisco DNA Center の現在のリリースへのアップグレードの詳細については、『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。